

VI. 「鳳バス」の運行についての利用者アンケート調査

1. 調査の概要

1) 調査の目的

鳳バスの利用者の利用実態や運行に対する意見・要望を把握し、課題及び改善策の検討を行うための基礎データを収集することを目的とする。

2) 実施期間

- ・鳳バス車内留置 …平成 26 年 12 月 8 日～31 日 (24 日間)
- ・乗込み調査時 …平成 26 年 12 月 7 日、13 日、18～19 日 (4 日間)

3) 調査対象

- ・鳳バス各路線利用者

4) 調査方法

- ・鳳バス車内にアンケート票を留置、または乗込み調査時に直接配布
- ・郵送または車内設置回収ボックスで回収

2. 回収率

- ・配布数が 147 件、回収数が 34 件で、回収率は 23.1%となった。

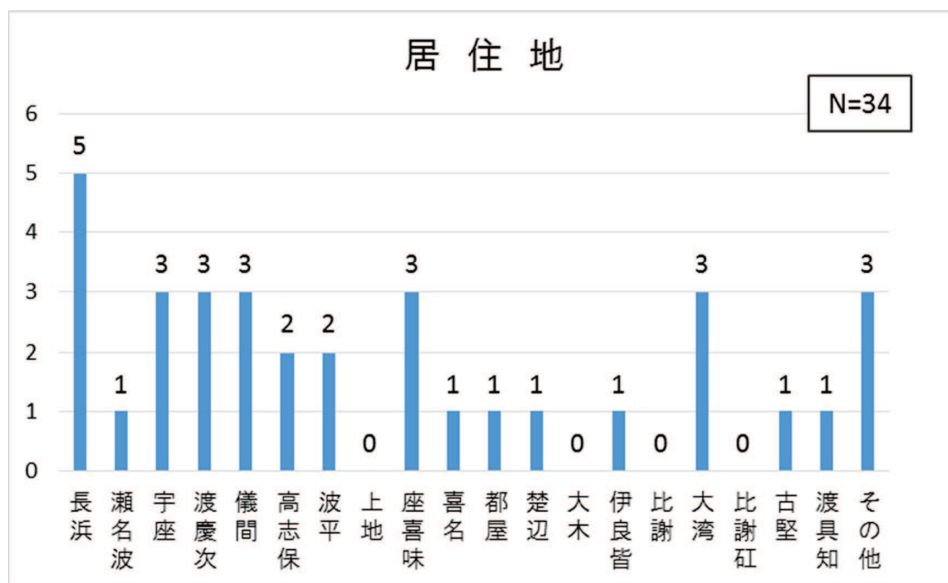
配布数	147 件
鳳バス車内留置(24 日間)	(48 件)
乗込み調査時(4 日間)	(99 件)
回収数	34 件
回収率	23.1%

3. 集計結果

1) 属性

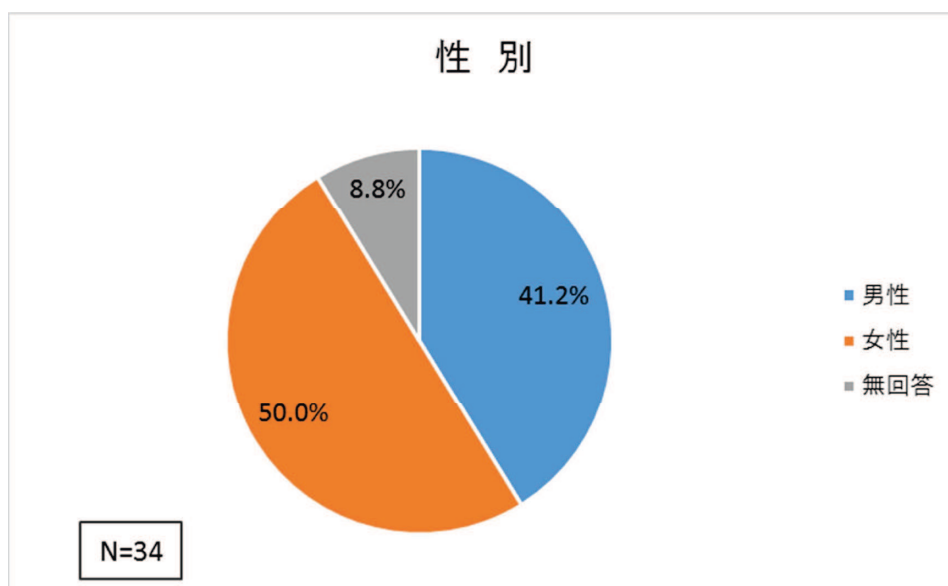
①居住地

- 「長浜」が5件と最も多く、次いで「宇座」、「渡慶次」、「儀間」、「座喜味」、「大湾」がそれぞれ3件であった。
- 「上地」、「大木」、「比謝」、「比謝砦」からは0件であった。
- 「その他」には、「嘉手納町」と「宇加地（恩納村）」があった。



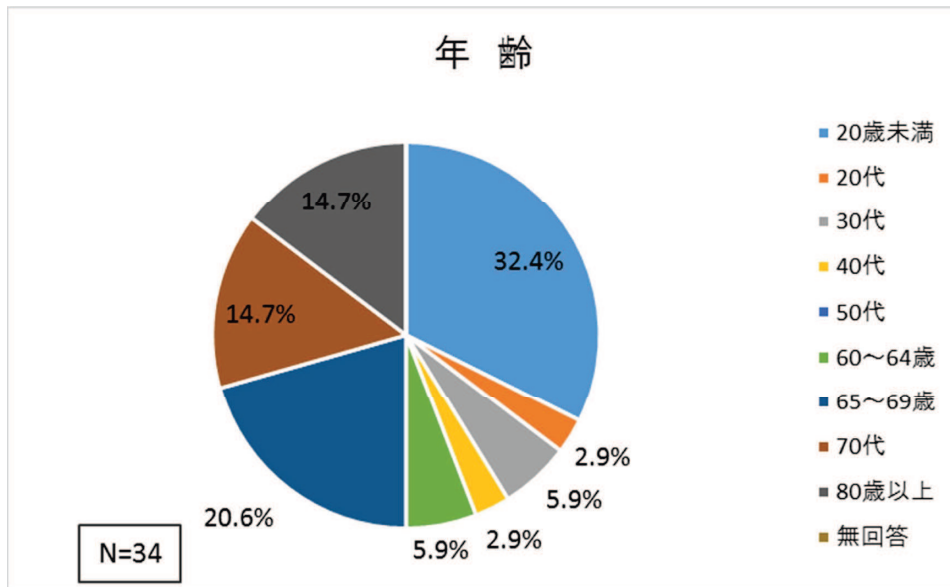
②性別

- 「女性」が17件（構成比50.0%）、「男性」が14件（同比41.2%）で「女性」の方が多かった。



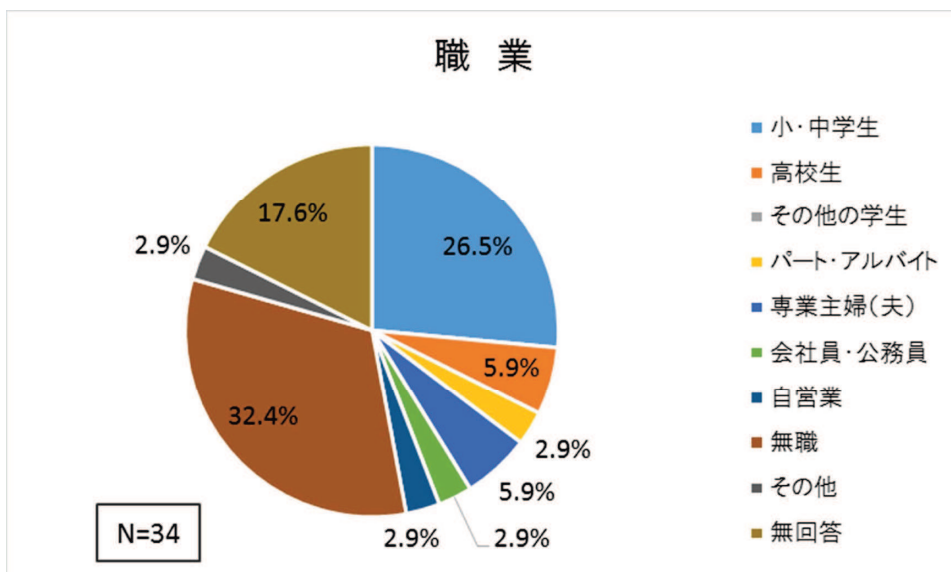
③年齢

- 「20歳未満」が11件（構成比32.4%）と最も多く、次いで「65～69歳」が7件（同
比20.6%）、「70代」と「80歳以上」がそれぞれ5件（同比14.7%）であった。
- 65歳以上は17件（同比50.0%）となり、半数を占めた。
- 交通弱者が多いと思われる、20歳未満と65歳以上が28件（同比82.4%）で8割を越
えた。



④職業

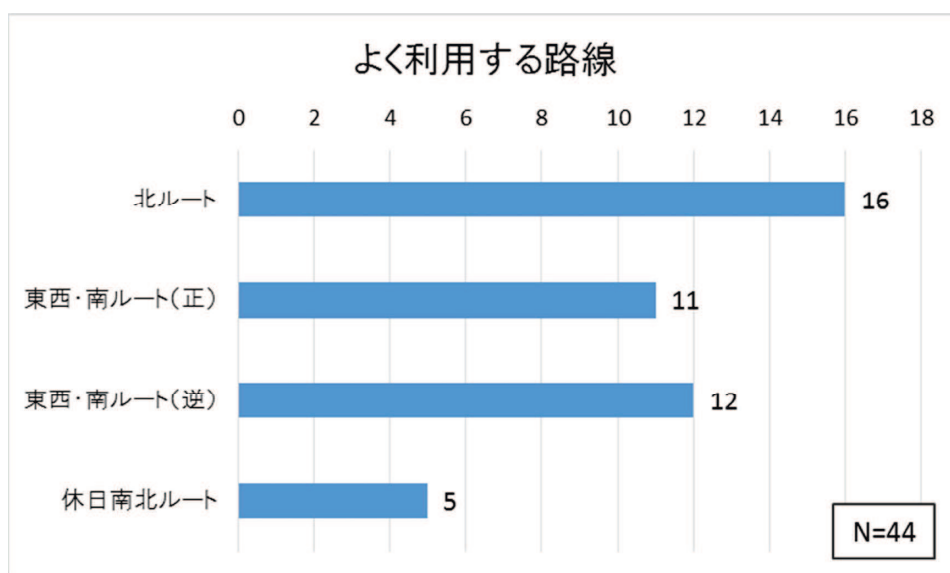
- 「無職」が11件（構成比32.4%）と最も多く、次いで「小・中学生」が9件（同比26.5%）
であった。高校生は2件（同比5.9%）にとどまった。



2) 鳳バスの利用状況

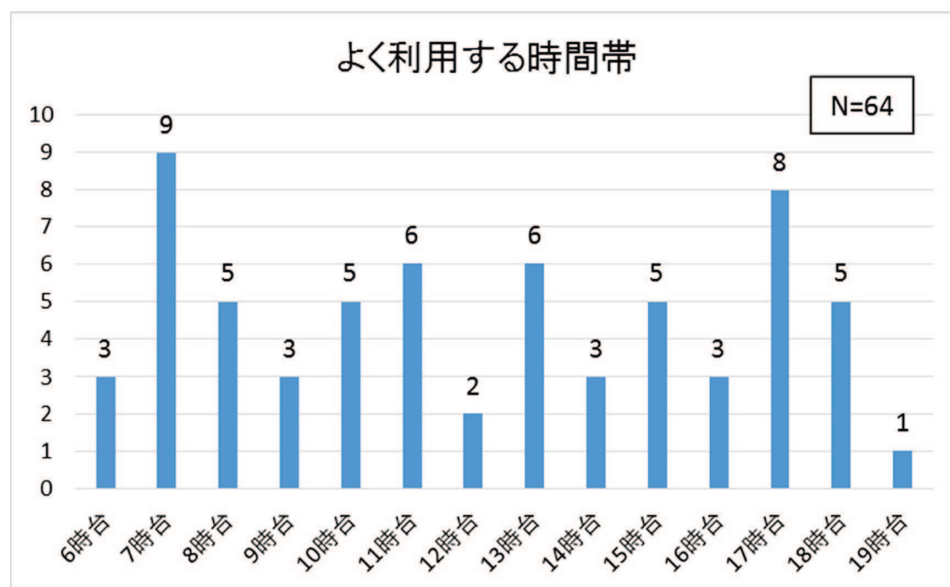
①よく利用する路線〔複数選択〕

- 「北ルート」が16件と最も多く、次いで「東西・南ルート（逆）」が12件、「東西・南ルート（正）」が11件の順であった。
- 一方、「休日南北ルート」は5件と最も少なかった。
- 月平均運賃収入と同様の順位となった。



②よく利用する時間帯〔記述〕

- 通学時間帯である「7時台」（9件）と「17時台」（8件）がよく利用される時間帯となった。
- 日中では「11時台」と「13時台」（ともに6件）が多かった。



※時刻で記入されている場合は、その時間で集計（例「8:54」→『8時台』）

※幅をもって記入されている場合は、分けて集計（例「8～10時」→『8時台』、『9時台』、『10時台』）

③よく利用する区間と最終目的地〔記述〕

- ・「読谷村役場」バス停を起着点とする区間が最も多く、「読谷村役場～イオンタウン読谷」は3件の回答があった。
- ・「イオンタウン読谷」バス停を起着点とする区間も多かった。
- ・バス停別でみると、「読谷村役場」バス停、「イオンタウン読谷」バス停、「高志保」バス停の順となった。
- ・最終目的地では「読谷村役場」と「学校施設」が8件で最も多く、次いで「自宅」の順となった。
- ・以上より、鳳バスは、読谷村役場及びその周辺への用事や通学、イオンタウン読谷への買物の移動手段としての利用が多いと推測される。

区間	回答数
読谷村役場 ～ イオンタウン読谷	3
読谷村役場 ～ 儀間	2
読谷村役場 ～ 高志保	2
読谷村役場 ～ 都屋中道	2
福祉センター ～ 宇座	2
読谷村役場 ～ 宇座	1
読谷村役場 ～ 長浜吹出原	1
読谷村役場 ～ 長浜 ^{*1}	1
読谷村役場 ～ 古堅南 ^{*2}	1
読谷村役場 ～ 船地原	1
読谷村役場 ～ 渡慶次寺原	1
読谷村役場 ～ 伊良皆	1
読谷村役場 ～ 読谷ニュータウン ^{*3}	1
イオンタウン読谷 ～ 古堅	1
イオンタウン読谷 ～ 高志保	1
イオンタウン読谷 ～ 診療所	1
イオンタウン読谷 ～ 都屋中道	1
イオンタウン読谷 ～ 読谷 ^{*4}	1
JAゆんた市場 ～ 古堅南 ^{*2}	1
渡慶次寺原 ～ 旧役場前	1
渡慶次寺原 ～ 上地	1
高志保 ～ 儀間	1
高志保 ～ 長浜 ^{*1}	1
船地原 ～ 渡慶次	1
都屋 ～ 大木	1
都屋道中 ～ 古堅	1
瀬名波 ～ センター前 ^{*5}	1
レイクサイドピラ入口 ^{*6} ～ 親志ハイランド ^{*7}	1
計	34

※区間で記入されたもののみ集計

*片方のバス停や最終目的地のみ記入されたものを合わせた総回答数は49件

※バス停名の前後入れ替えあり(例「儀間～高志保」で記入→『高志保～儀間』で集計)

停留所	回答数
読谷村役場	17
イオンタウン読谷	8
高志保	7
都屋中道	4
古堅	4
儀間	3
宇座	3
渡慶次寺原	3
長浜 ^{*1}	2
古堅南 ^{*2}	2
船地原	2
福祉センター	2
長浜吹出原	1
伊良皆	1
読谷ニュータウン ^{*3}	1
診療所	1
読谷 ^{*4}	1
JAゆんた市場	1
旧役場前	1
上地	1
渡慶次	1
都屋	1
大木	1
瀬名波	1
センター前 ^{*5}	1
レイクサイドピラ入口 ^{*6}	1
親志ハイランド ^{*7}	1
大湾 ^{*8}	1
喜名	1
儀間公民館	1
座喜味	1
瀬名波入口	1
高志保入口	1
渡慶次公民館	1
計	79

※片方のバス停のみ記入されたものも含む

最終目的地	回答数
読谷村役場	8
学校施設	8
読谷中学校	(3)
喜名小学校	(1)
中学校	(1)
小学校	(1)
学校	(2)
自宅	5
銀行、郵便局	3
健康増進センター	3
健康増進センター	(1)
増進センター	(1)
健康ランド	(1)
JAゆんた市場	2
イオンタウン読谷	2
診療所	1
文化センター	1
村立図書館	1
その他	4
青雲館	(1)
じゅうどうしょう	(1)
波平・大当	(1)
古堅	(1)
計	38

※最終目的地のみ記入されたものも含む

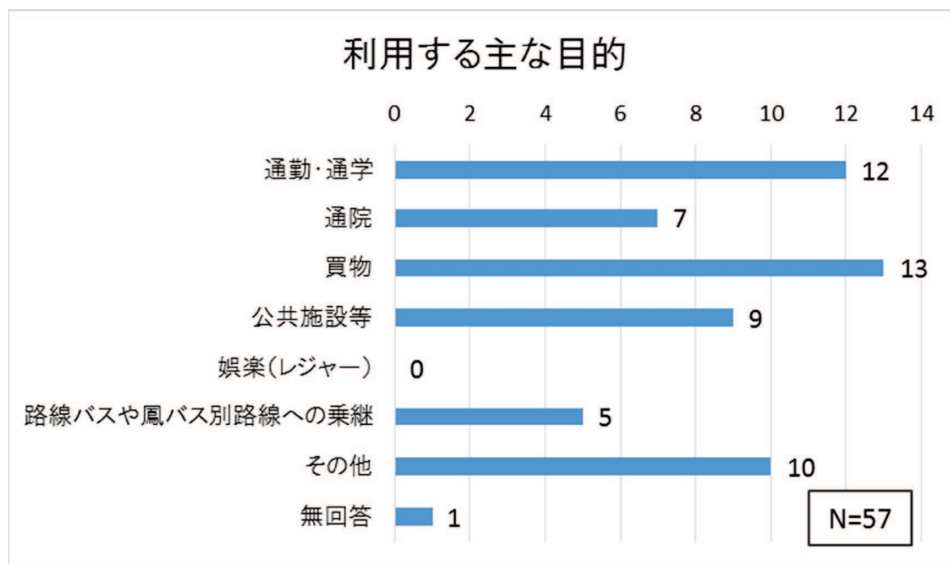
※記入されたバス停名は明確なものに限り鳳バスのバス停名に修正（修正対象:「役場・役所」、「イオン」、「ゆんた市場」）

※上記以外で不明確なバス停名は以下の通り

- *1:長浜…鳳バスでは“長浜吹出原バス停”と“長浜公民館西バス停”が、路線バスでは“長浜バス停”が存在
- *2:古堅南…“古堅南小学校バス停”と思われる(古堅には4つのバス停が存在)
- *3:読谷ニュータウン…路線バスでは“読谷ニュータウンバス停”であるが、鳳バスでは“大添バス停”と思われる
- *4:読谷…“読谷村役場バス停”と“読谷バスターミナル”が存在
- *5:センター前…最終目的地が「増進センター」となっていることから、“健康増進センター”と思われる
- *6:レイクサイドピラ入口…“シーレイク座喜味バス停”と思われる
- *7:親志ハイランド…読谷ハイランド内の“横田公園バス停”と思われる
- *8:大湾…鳳バスでは“大湾公民館前バス停”と“大湾西原バス停”が、路線バスでは“大湾バス停”が存在し、調査時は工事による路線変更があり、“大湾公民館前バス停”が“大湾バス停”近辺に移設(仮バス停が設置)されていた

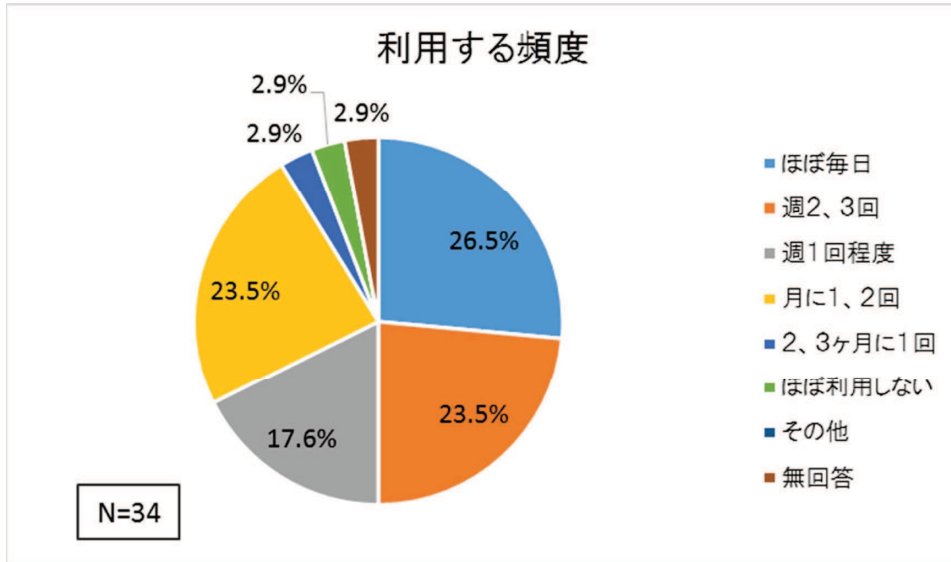
④利用する主な目的〔複数選択〕

- ・鳳バスを利用する主な目的は「買物」13件と最も多く、次いで「通勤・通学」が12件、「その他」が10件、「公共施設等」が9件の順となった。
- ・一方、「娯楽（レジャー）」目的は0件であった。
- ・「路線バスや鳳バス別路線への乗継」目的でも利用されていることから、フィーダー系交通としての役割も担っていることがわかる。



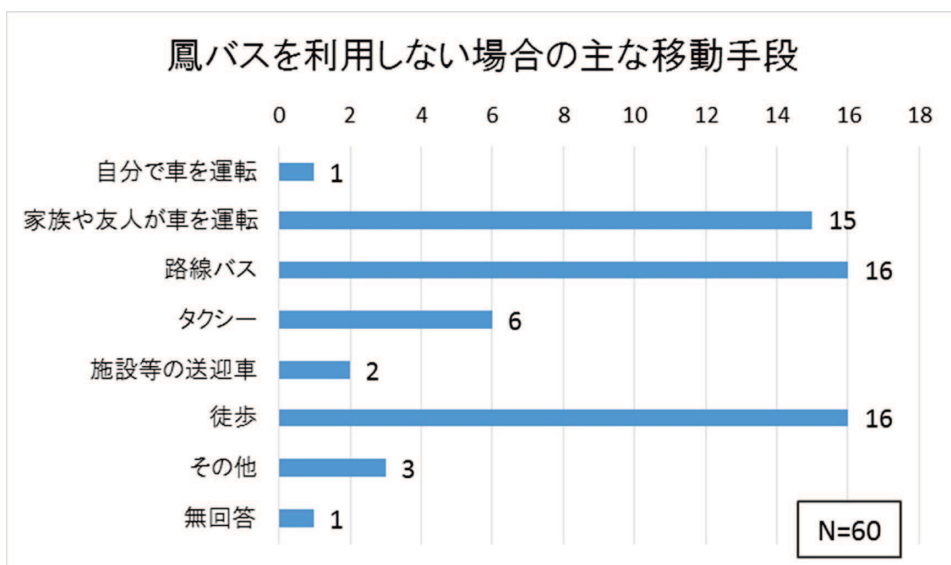
⑤利用する頻度

- 利用頻度は「ほぼ毎日」が9件（構成比 26.5%）と最も多く、次いで「週2、3回」と「月に1、2回」がそれぞれ8件（同比 23.5%）であった。
- 週1回以上の利用が7割弱を占めており、利用者は比較的頻繁に利用している者が多いと考えられる。



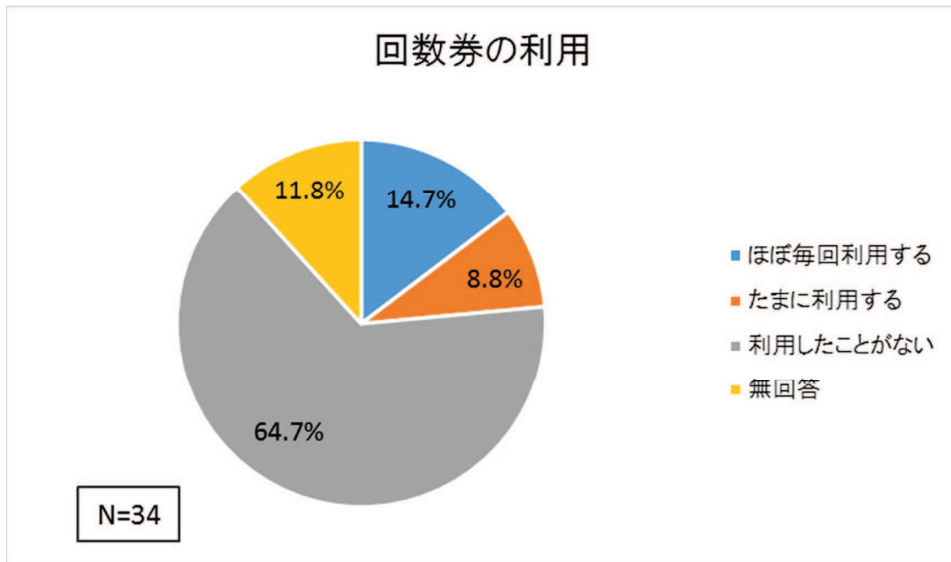
⑥鳳バスを利用しない場合の主な移動手段〔複数選択〕

- 鳳バスを利用しない場合の主な移動手段は「路線バス」と「徒歩」がそれぞれ16件と最も多く、次いで「家族や友人が車を運転」が15件であった。



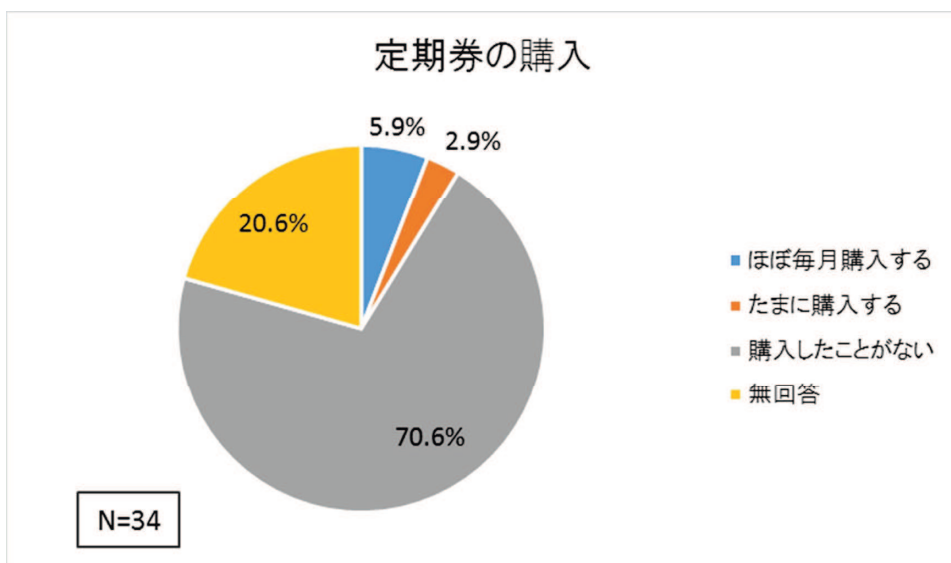
⑦回数券の利用

- 回数券を「利用したことがない」が 22 件（構成比 64.7%）と 6 割強を占めた。
- 一方、「ほぼ毎回利用する」が 5 件（同比 14.7%）、「たまに利用する」が 3 件（同比 8.8%）となっており、回数券を利用している方は定期的に購入し利用している方が多いと推測される。
- ただし、「⑤利用する頻度」では、7 割弱が週 1 回以上の利用しているにもかかわらず、2 割程度しか回数券を利用していないといえる。



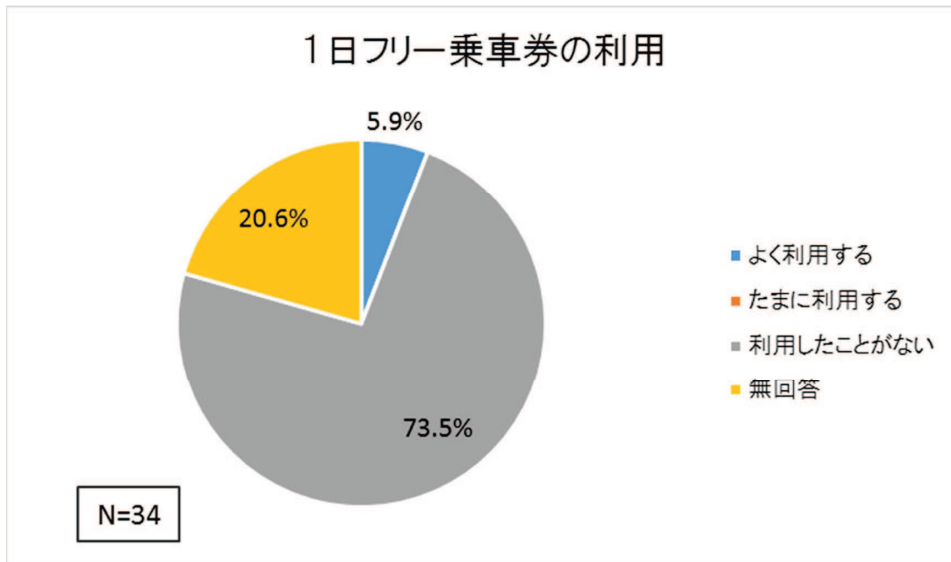
⑧定期券の購入

- 定期券を「購入したことがない」が 24 件（構成比 70.6%）と 7 割を占めた。
- 一方、「ほぼ毎月購入する」と「たまに購入する」の合計は 3 件にとどまっており、「⑤利用する頻度」で「ほぼ毎日」が 9 件だったことから、かなりの高頻度で利用している乗客でも、定期券を購入していない場合があるといえる。



⑨1日フリー乗車券の利用

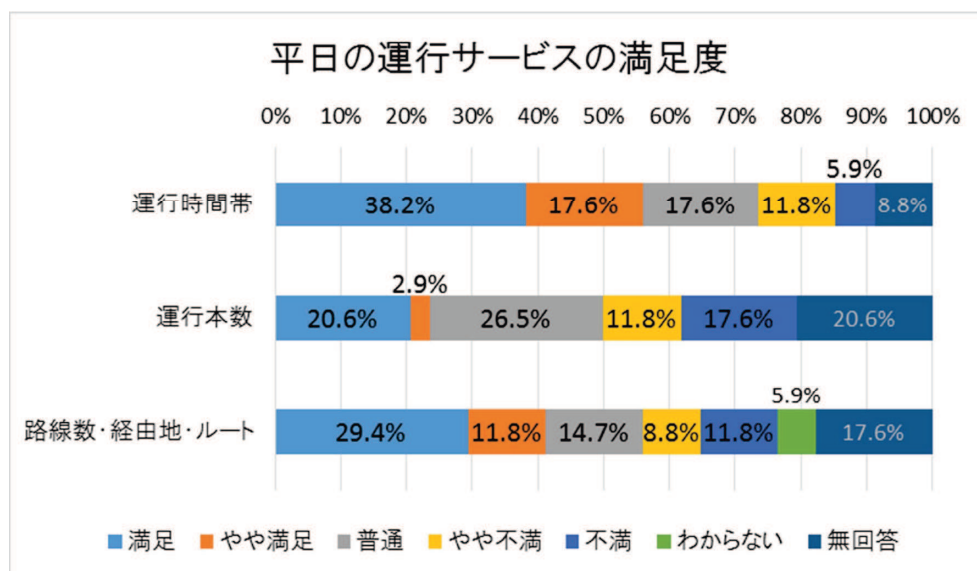
- 1日フリー乗車券を「利用したことがない」が25件（構成比73.5%）と7割強を占めた。
- 1日フリー乗車券の性格上、「たまに利用する」ことが多いと考えられるが、現状では、よく利用する数人を除くと、あまり利用されていないと考えられる。



3) 鳳バスの満足度

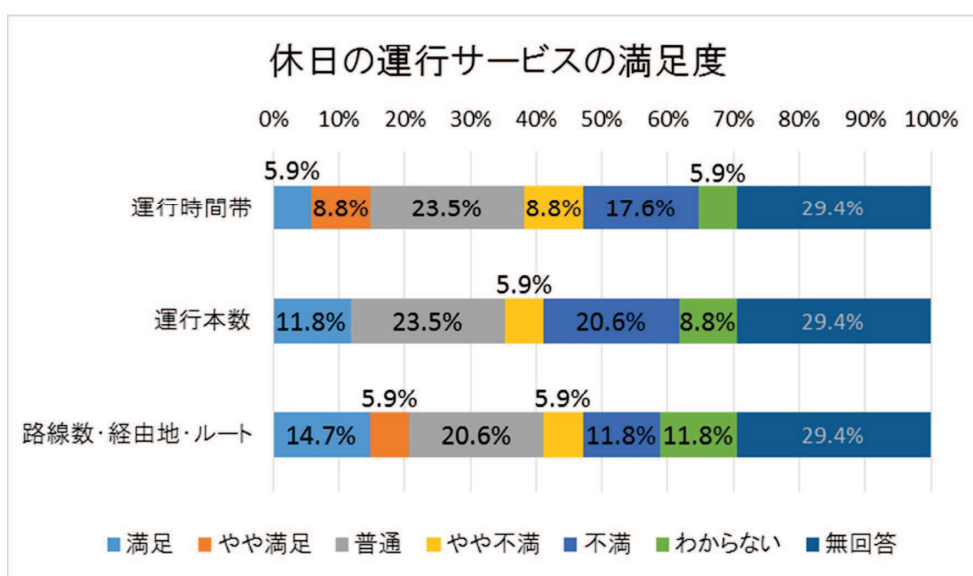
① 平日の運行サービスの満足度

- 運行時間帯の満足度は「満足」(38.2%) が最も多く、次いで「やや満足」と「普通」が同率(17.6%)であった。一方、「不満」(5.9%) や「やや不満」(11.8%) は比較的少なかった。「満足」と「やや満足」を合わせた満足側は 55.9%、「不満」と「やや不満」を合わせた不満側は 17.6%となり、満足度が非常に高いといえる。
- 運行本数の満足度は「普通」(26.5%) が最も多く、「満足」(20.6%)、「不満」(17.6%) の順となった。満足側は 23.5%、不満側は 29.4%で、不満側がやや優勢となり、他よりも満足度が低くなった。
- 路線数・経由地・ルート of 満足度は「満足」(29.4%) が最も多くなった。満足側は 41.2%、不満側は 20.6%となり、満足度が高いという結果になった。
- 回答者は平日利用者が多かったことから、どの項目でも「わからない」は少なかった。



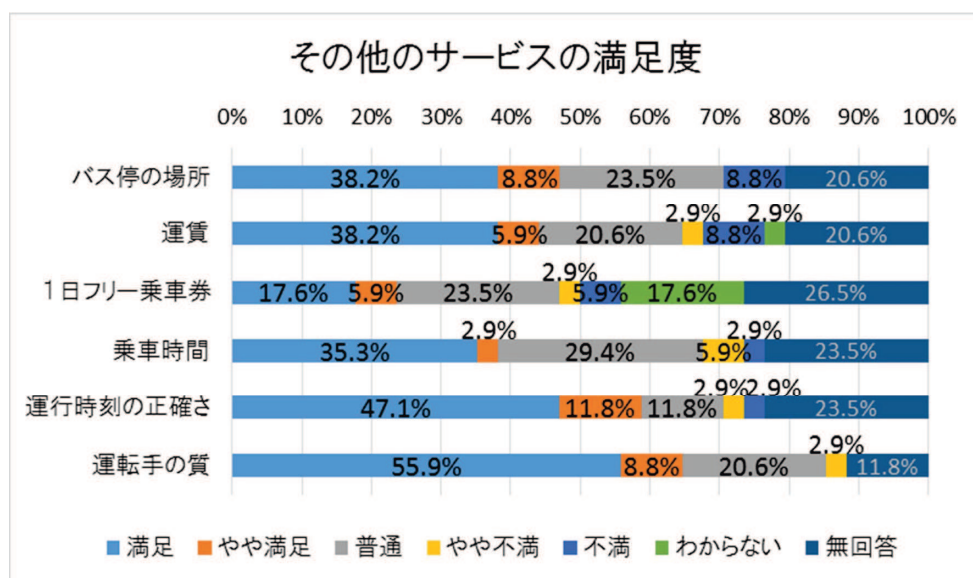
②休日の運行サービスの満足度

- 運行時間帯の満足度は「普通」(23.5%)が最も多く、次いで「不満」(17.6%)となった。一方、「満足」は5.9%にとどまった。「満足」と「やや満足」を合わせた満足側は14.7%、「不満」と「やや不満」を合わせた不満側は26.5%となり、不満側がかなり優勢となった。
- 運行本数の満足度は「普通」(23.5%)が最も多く、次いで「不満」(20.6%)、「満足」(11.8%)の順となった。満足側が11.8%、不満側が26.5%となり、不満側がかなり優勢となった。
- 路線数・経由地・ルートは「普通」(20.6%)が最も多く、次いで「満足」(14.7%)、「不満」(11.8%)の順となった。満足側は20.6%、不満側は17.6%となり、満足側がやや優勢となり、満足度はやや高いといえる。
- どの項目でも「わからない」が平日の運行サービスと比べると多くなった。



③その他のサービスの満足度

- バス停の場所の満足度は「満足」(38.2%) が最も多く、次いで「普通」(23.5%) であった。「満足」と「やや満足」を合わせた満足側は 47.1%、「不満」と「やや不満」を合わせた不満側は 8.8%であり、満足度はかなり高いといえる。
- 運賃の満足度は「満足」(38.2%) が最も多く、次いで「普通」(20.6%) であった。満足側は 44.1%、不満側は 11.7%となり、バス停の場所と同様に満足度はかなり高いといえる。
- 1 日フリー乗車券の満足度は「普通」(23.5%) が最も多く、次いで「満足」(17.6%) であった。満足側は 23.5%、不満側は 8.8%で、満足側の優勢となった。一方で、利用したことがない回答者が多いため、「わからない」が 17.6%と多くなった。
- 乗車時間(乗車から降車するまでの所要時間)の満足度は「満足」(35.3%) が最も多く、次いで「普通」(29.4%) であった。満足側は 38.2%、不満側が 8.8%であることから、満足度は高いといえる。
- 運行時刻の正確さの満足度は「満足」(47.1%) が最も多く、次いで「やや満足」と「普通」が同率(11.8%) であった。満足側が 58.8%と半数以上を占めており、不満側は 5.9%にとどまった。満足度は非常に高いといえる。
- 運転手の質の満足度は「満足」(55.9%) が最も多く半数以上を占めた。次いで「普通」(20.6%) であった。満足側が 64.7%、不満側が 2.9%と全項目の中で最も満足側が高く、不満側が低い結果となった。満足度は非常に高いといえる。



④鳳バスの満足度の全体評価

- 満足を5点、不満を1点として段階に点数で評価し、「平日の運行サービス」、「休日の運行サービス」、「その他のサービス」をみると、「その他のサービス」が3.9点と最も高くなった。
- 「平日の運行サービス」の全体評価は3.4点、「休日の運行サービス」の全体評価は2.8点となり、平日の方が高評価となった。全項目で平日の評価が上回っており、特に「運行時間帯」は平日3.8点、休日2.6点と大きな差がついた。
- 鳳バスの満足度の全体評価は3.5点となり、全体の満足度は「普通」よりも高いという結果となった。

	点数
平日の運行サービス	3.4
運行時間帯	(3.8)
運行本数	(3.0)
路線数・経由地・ルート	(3.5)
休日の運行サービス	2.8
運行時間帯	(2.6)
運行本数	(2.6)
路線数・経由地・ルート	(3.1)
その他のサービス	3.9
バス停の場所	(3.9)
運賃	(3.8)
1日フリー乗車券	(3.5)
乗車時間	(3.8)
運行時刻の正確さ	(4.3)
運転手の質	(4.3)
鳳バスの全体評価	3.5

◆点数の算出方法

- * 各回答数の構成比に点数を積算し、その合計を項目の点数とした。構成比は「わからない」や「無回答」は含まない。
- * 「平日の運行サービス」、「休日の運行サービス」、「その他のサービス」の点数は、該当項目の平均点とした。
- * 「鳳バスの全体評価」の点数は、全ての項目の平均点とした。

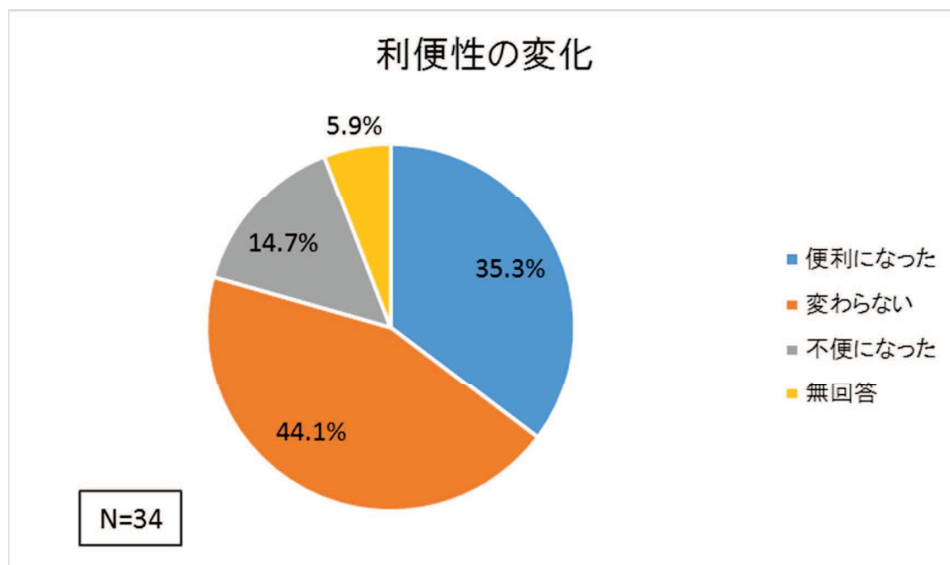
◆点数の設定



4) 平成 25 年 7 月の路線変更による利用状況の変化

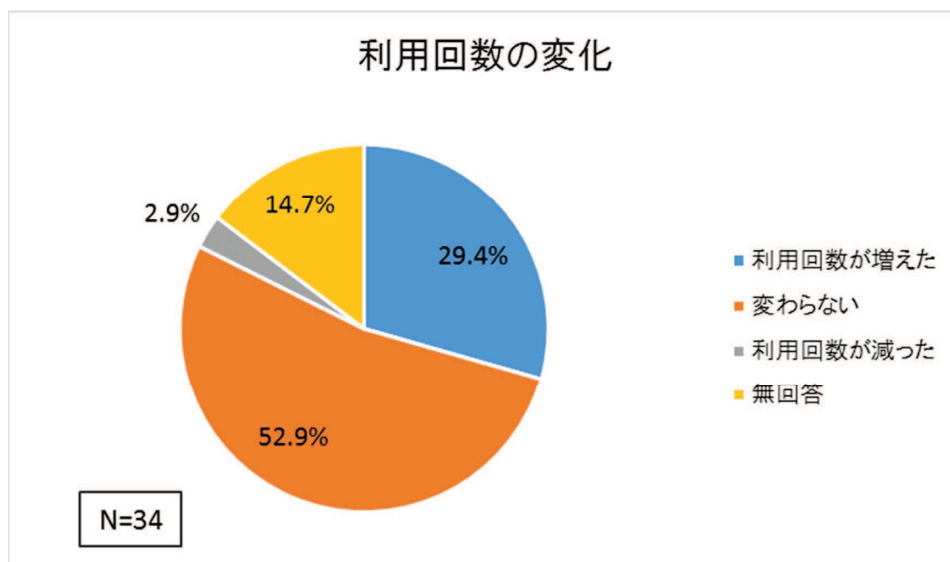
①利便性の変化

- 平成 25 年の路線変更による利便性の変化は、「変わらない」が 15 件（構成比 44.1%）と最も多かった。
- 「便利になった」が 12 件（同比 35.3%）、「不便になった」が 5 件（同比 14.7%）で、比較的便利になったと感じている方が多かった。



②利用回数の変化

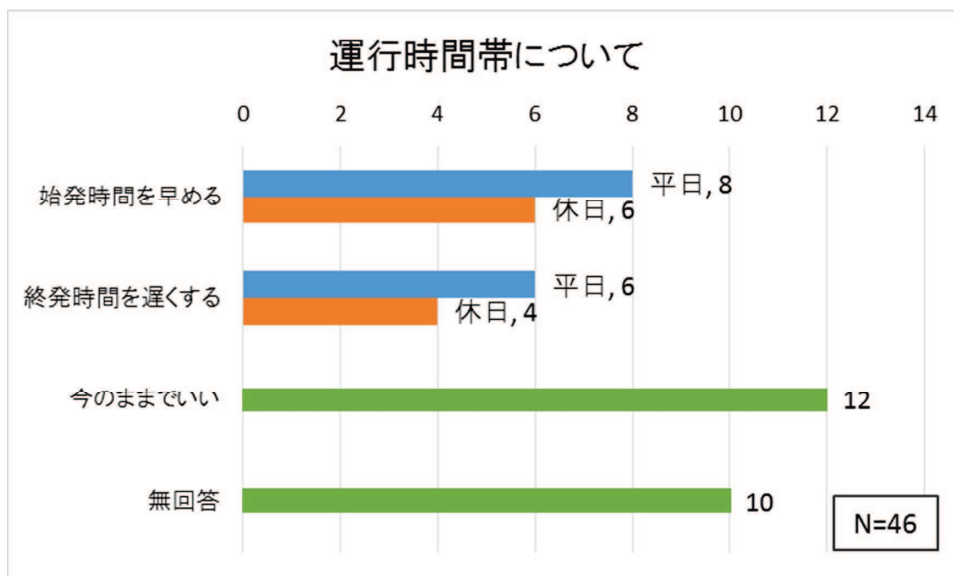
- 利用回数は「変わらない」が 18 件（構成比 52.9%）と最も多く、5 割強を占めた。
- 「利用回数が増えた」は 10 件（同比 29.4%）、「利用回数が減った」が 1 件（同比 2.9%）で、利用回数が増えた方が多くなった。
- 路線変更による利用回数の変化があまりみられなかったのは、回答者に路線変更の影響が少ない平日利用者が多いこと、利便性が低下して利用しなくなった元利用者が調査対象から外れていることなどが影響していると考えられる。



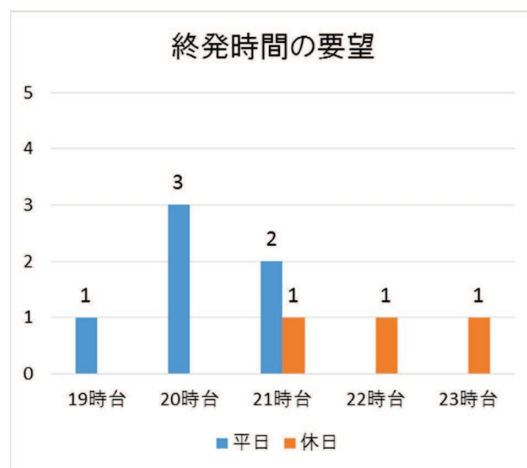
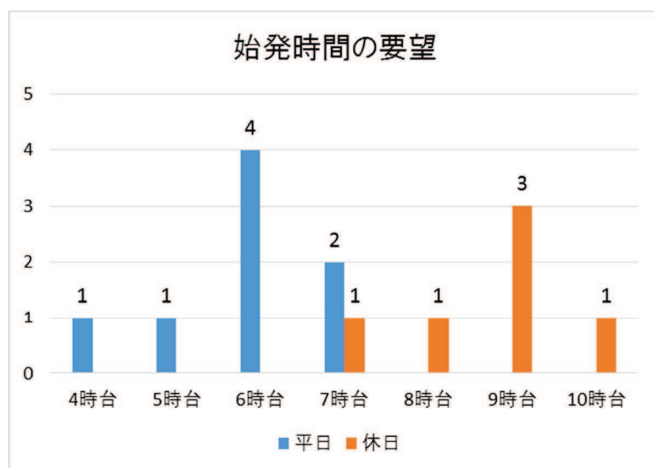
5) 鳳バス運行サービスに対する意見・要望

① 運行時間帯について〔複数選択・記述〕

- 運行時間帯については、「今のままで良い」が12件と最も多かった。
- 「始発時間を早める」では、「平日」が8件、「休日」が6件となった。
- 「終発時間を遅くする」では、「平日」が6件、「休日」が4件となった。
- 運行時間の延長を行う場合には、終発時間よりも始発時間の調整が要望されているといえる。



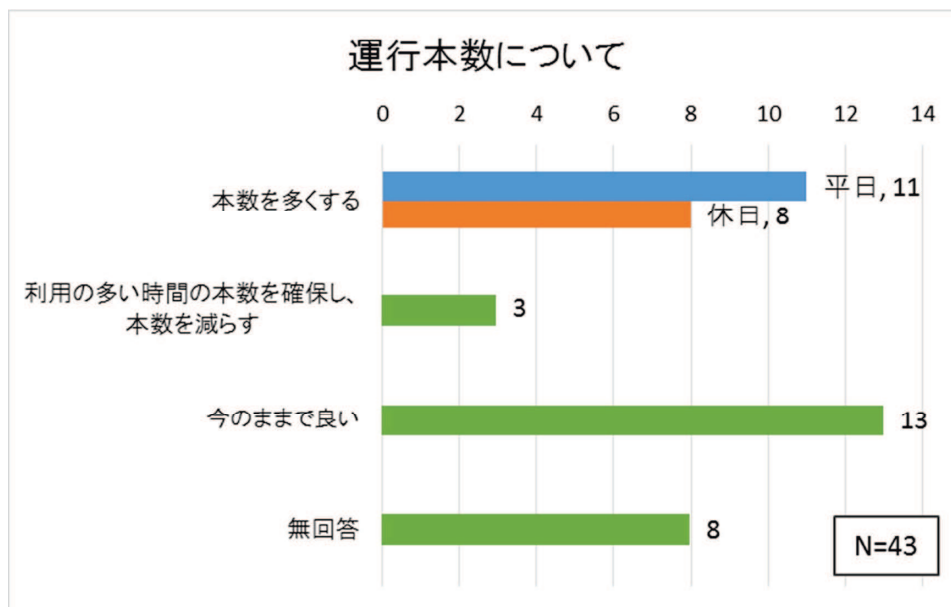
- 始発時間の要望は「平日」では「6時台」、「休日」では「9時台」が最も多くなった。記述には、「もう少し学校に着く時間を早くしてほしい」や「休日はお店の開店時間に合わせて運行してほしい」といった意見があった。
- 終発時間の要望は「平日」では「20時台」が多かった。「休日」では特に目立った傾向はなかったが、21時以降と平日よりも遅い時間が挙げられた。記述には「文化センターでのサークル活動後にも利用できるようにしてほしい」といった意見があった。



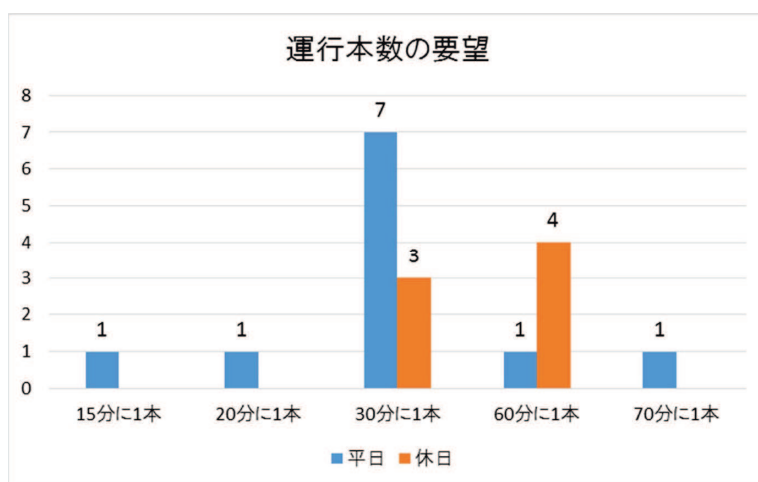
※時刻等で記入されている場合は、その時間で集計（例「8:30」、「8時半」→「8時台」）

②運行本数について〔複数選択・記述〕

- 運行本数については、「今のままで良い」が13件と最も多くなった。
- 「本数を多くする」では、「平日」が11件、「休日」が8件であった。現状としては、休日の運行本数の方が少ないが、回答者は平日の利用が多く、自分の利用する便の運行本数増加を求めていると考えられる。
- 「利用の多い時間の本数を確保し、本数を減らす」は3件と少なかった。



- 運行本数の要望では、「平日」は「30分に1本」が最も多かった。「休日」は「60分に1本」と「30分に1本」に意見が分かれた。

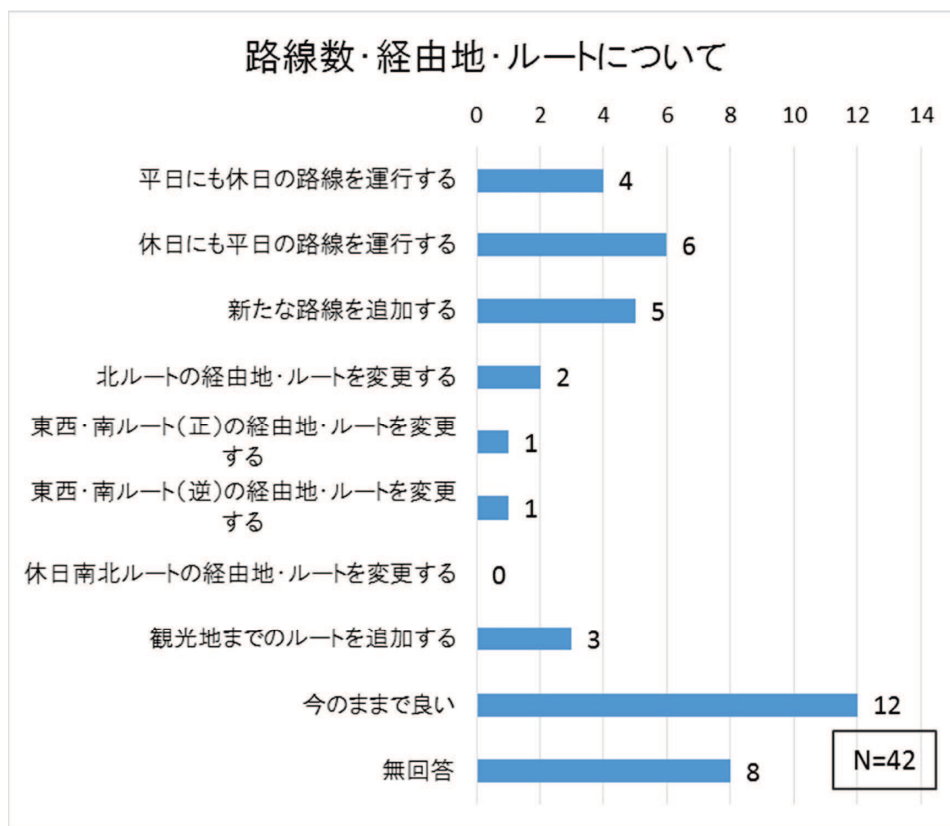


※時間が幅をもって記入されている場合は、最も短い時間で集計（例「15～20分」→『15分』）

- 記述では、「本数をもっと増やしてほしい」という意見が多く、「路線バスが少ない・通らないルートの本数を増やしてほしい」という意見などがあった。
- 運行本数とは別に、「路線バスや病院の送迎バスとの連携がうまくできるように再考してほしい」という意見もあった。

③路線・経由地・ルートについて〔複数選択・記述〕

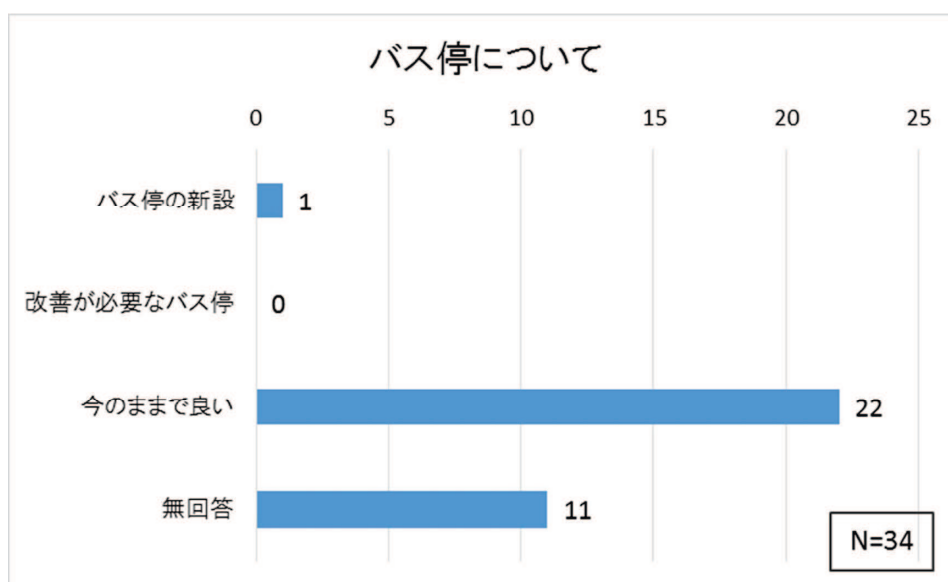
- 路線・経由地・ルートについては、「今のままで良い」が12件で最も多かった。
- 「休日にも平日の路線を運行する」が6件、「新たな路線を追加する」が5件と、路線の追加に対する要望が強かった。
- 一方、既存路線の変更については、路線の追加よりも要望が少なかった。



- 記述では、「東西・南ルートの（正）と（逆）を同じルートにしてほしい。」や「都屋マックスバリュを経由してほしい」、「休日の路線を充実させてほしい」、「北ルートでは長浜からバスターミナルを経由してから渡慶次方面へ向かってほしい」といった意見があった。

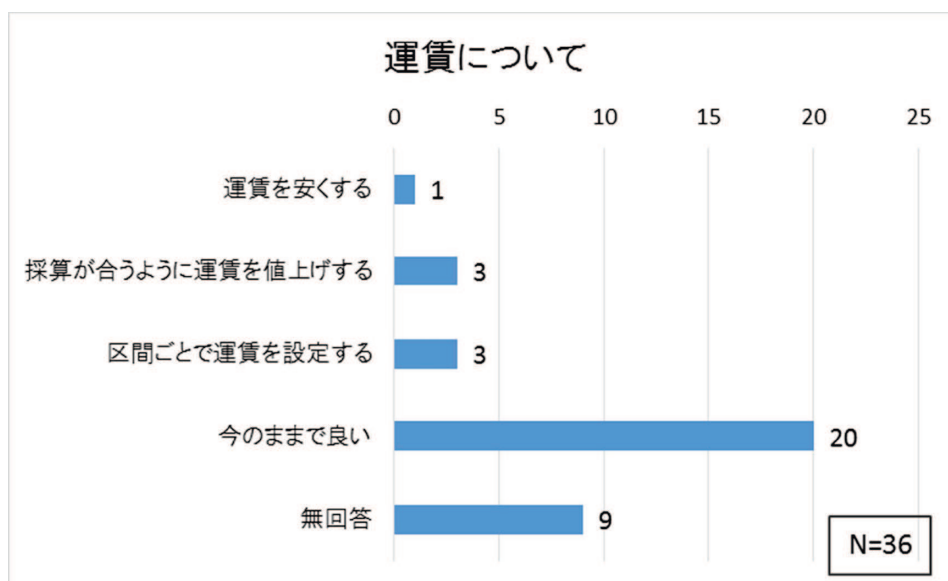
④バス停について〔複数選択・記述〕

- バス停については、「今のままで良い」が22件と圧倒的に多かった。
- 「バス停の新設」（1件）では、「喜名小学校」が挙げられた。
- 記述では、「大湾公民館前のバス停は、仮バス停（大湾十字路付近）の位置の方が良い」や「屋根を設置してほしい」、「伊良皆郵便局付近にバス停を設置してほしい」、「大型スーパーで乗り継ぎできるようにしてほしい」といった意見があった。



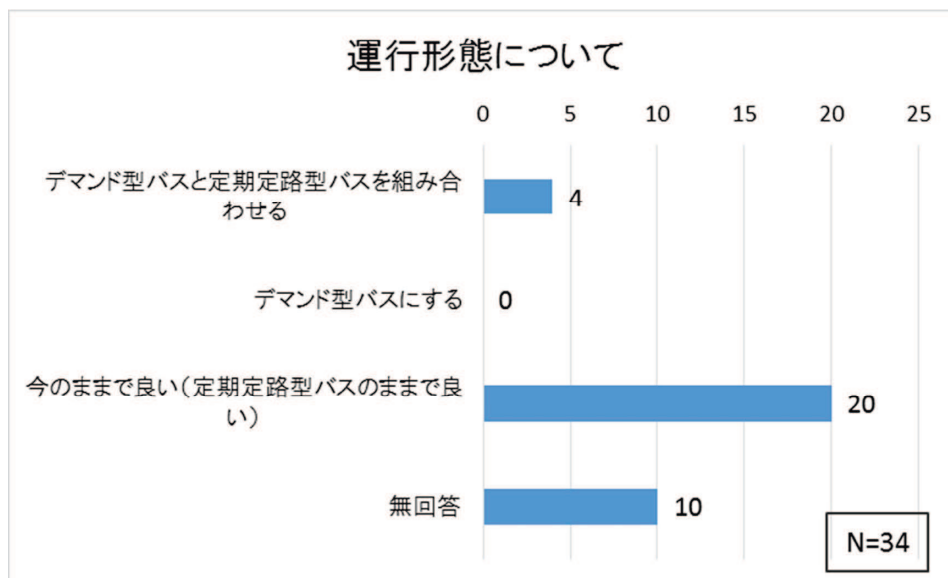
⑤運賃について〔複数選択・記述〕

- 運賃については、「今のままで良い」が20件と圧倒的に多かった。
- 記述では、「安くて助かっている」のほか、「もう少し安くしてほしい」との意見もあった。



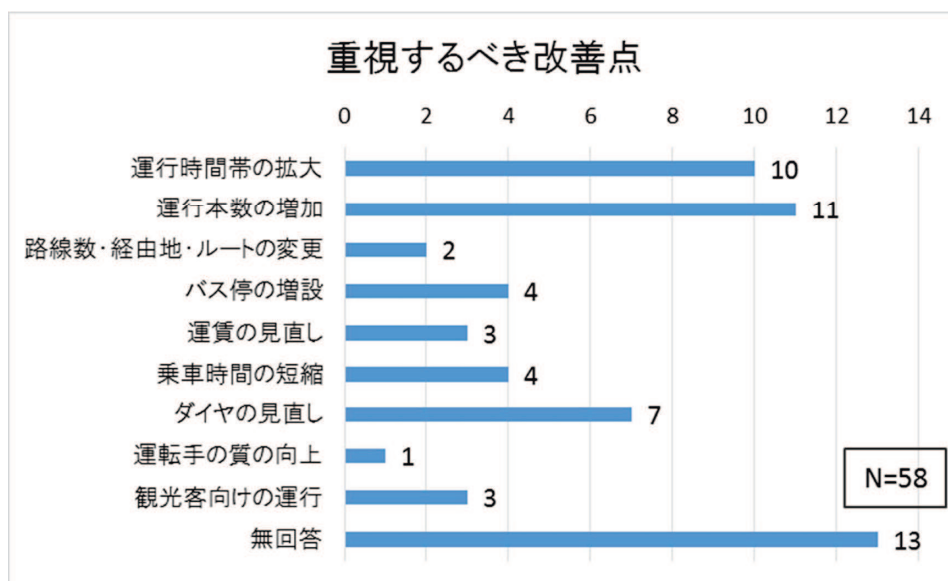
⑥運行形態について〔複数選択・記述〕

- 運行形態については、「今のままで良い」が20件と圧倒的に多かった。
- 「デマンド型と定期定路型バスを組み合わせる」は4件にとどまり、「デマンド型バスにする」は回答がなかった。



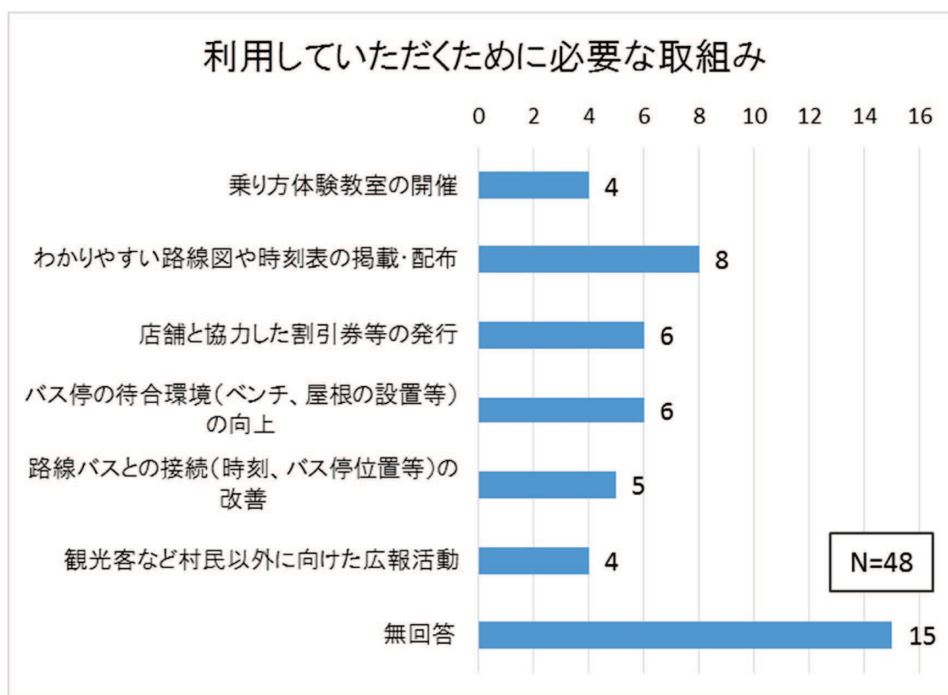
⑦重視すべき改善点〔複数選択・記述〕

- 重視すべき改善点として、「運行本数の増加」が11件と最も多く、次いで「運行時間帯の拡大」が10件、「ダイヤの見直し」が7件となった。
- 「路線数・経由地・ルートの変更」(2件)や「観光客向けの運行」(3件)、「バス停の増設」(4件)は回答が少なかった。
- これまでの回答の傾向からも、路線やルートについては変化を望まず、運行本数の増加や運行時間の拡大により、利便性を高める方向を重視していると考えられる。



6) 利用していただくために必要な取組み〔複数選択〕

- ・「無回答」が多く、他に目立って回答の多い選択肢はなかった。
- ・最も多い回答は、「わかりやすい路線図や時刻表の掲載・配布」の8件だった。



7) 路線バスなども含めた公共交通についての自由意見

- ・全体的に路線バスについての意見は少なかった。「何番がどの路線・ルートなのかがわかりにくい」や「石川線では遅延が多い」といった意見があった。
- ・鳳バスについては、路線やバス停位置の見直し、運行本数の見直しについて意見があった。

8) 記述回答の整理

- ・調査票において、「鳳バスの運行についてのご意見・ご要望」、「より多くの方に利用していただくための取組み」、「路線バスなどを含めた公共交通に対するご意見・ご要望」についての記述欄を設けた。記述回答の内容を以下に整理する。

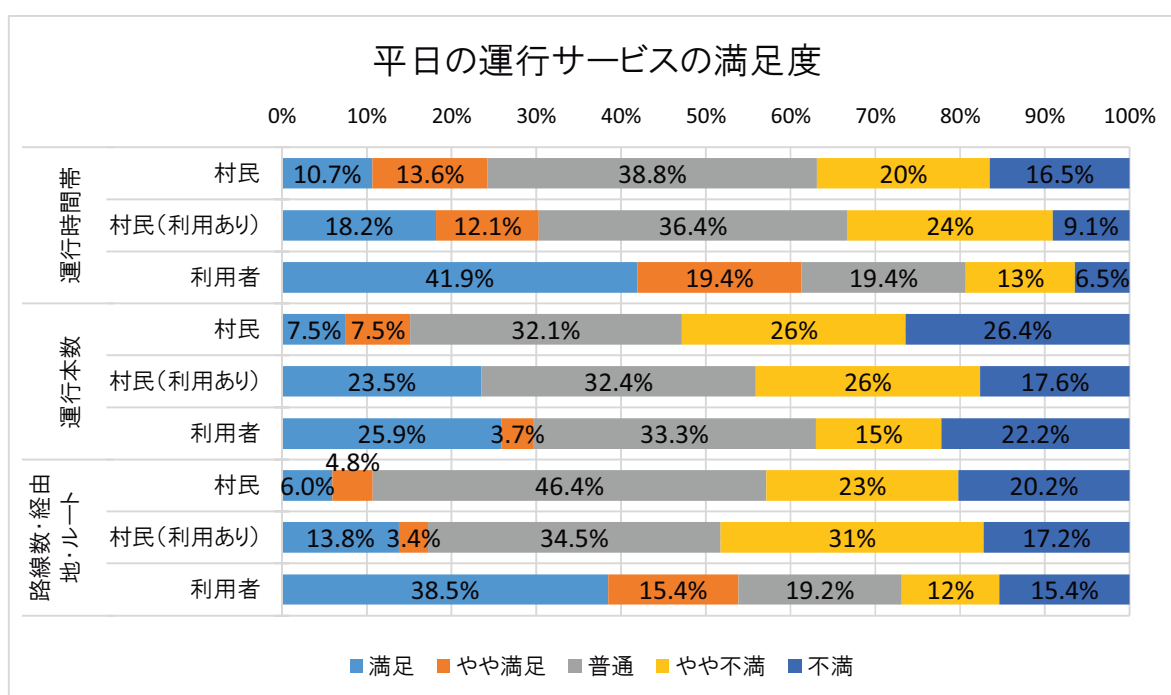
【ルート】
<ul style="list-style-type: none">○乗換えの必要がないよう、平日の南ルートと北ルートを直結させる。○県道は全て通るようにし、瀬名波―高志保入口間のような通らない区間をなくす。○伊良皆から役場に行くと、帰りが遠回りである。以前のように直行できるとよい。○土休日は北ルートが運行していないので使えない。○北ルートを逆周りにし、渡慶次から大当経由で役場に行けるとよい。診療所に行きやすくなる。
【バス停】
<ul style="list-style-type: none">○バス停に屋根を設置してほしい。○目的の施設にバス停がなく、歩く必要がある。バス停を見なおしてほしい。
【運行】
<ul style="list-style-type: none">○30分以内の間隔で運行してほしい。○朝早くから運行してほしい。○もう少し正確な時間にきてほしい。○北ルートだけでもいいので、1時間に1本で運行してほしい。○学生の帰宅時間は1台増やしてはどうか。
【乗車券等】
<ul style="list-style-type: none">○学校と役場で協力し、「集団通学割引」など通学割引の充実を検討する。
【村民利用】
<ul style="list-style-type: none">○もっと宣伝する。○役場職員のマイカー禁止など、たまにバスで通勤をするとよいのでは。○学校から遠い子供などを対象に、乗車体験させる。○ファミリー向けや、月に数回高齢者向けのツアーを企画する
【村外在住利用者】
<ul style="list-style-type: none">○バス内でバス停周辺の案内をしたり、パンフレットやバス停の看板に載せたりするとよい。○観光客向けにイベントや観光地などを載せたパンフレットを作成するとよい。○ホテルにも協力してもらい、休日にはガイド付き史跡めぐりルートをつくる。
【路線バス】
<ul style="list-style-type: none">○路線バスは番号からルートがすぐわからない。○路線バス読谷石川線では、始発の時間を守らず、遅延が頻発している。○バス停に人がいるのに停まらなかったり、制限速度をオーバーしたり、問題のある運転手がいる。

VII. 村民アンケート調査と利用者アンケート調査の比較

1. 満足度の比較

1) 平日の運行サービスの満足度の比較

- 全ての項目において、「利用者アンケート（以降、「利用者」）」の「満足」と「やや満足」を合わせた満足側の割合が高く、「不満」と「やや不満」を合わせた不満側の割合が低くなった。
- 特に「路線数・経由地・ルート」では、差異が顕著に表れており、利用者の満足側の割合が高く5割を超えているが、「村民アンケート（以降、「村民」）」と「村民アンケートにおいて、鳳バスを利用したことがあると回答した方（以降、「村民（利用あり）」）」では不満側が大きく優勢となった。



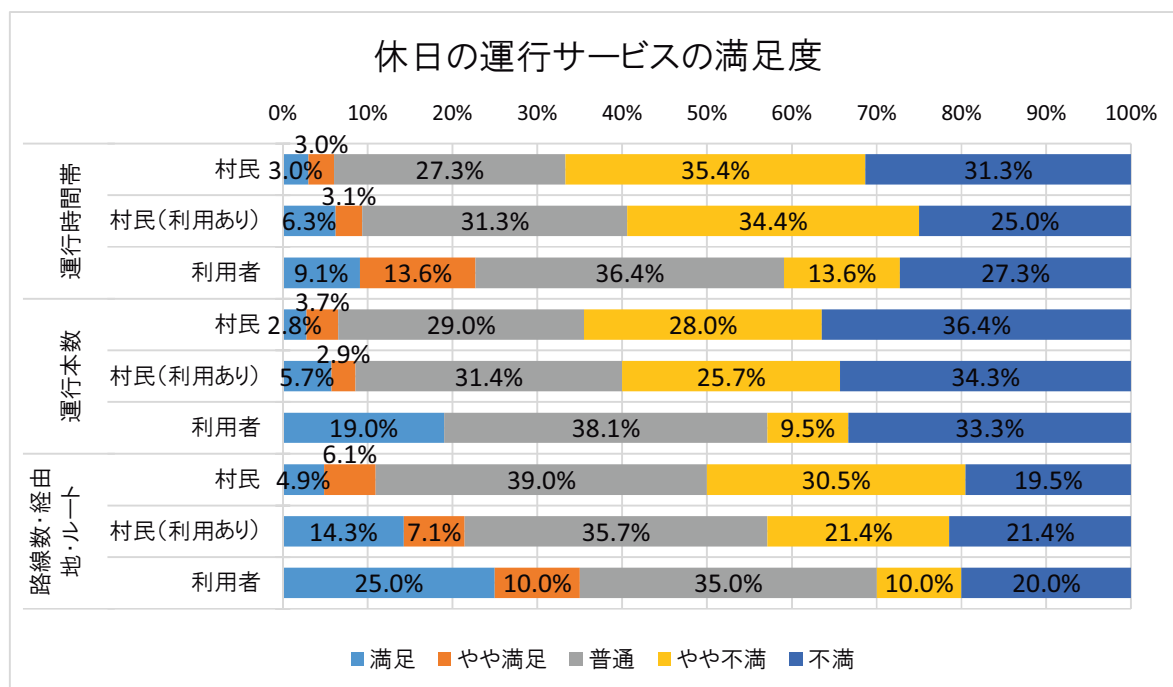
※「わからない」、「無回答」は除いた百分率グラフで表示している。以降のグラフも同様とする。

※縦軸の項目は以下の通り。以降のグラフも同様とする。

- ・「村民」…村民アンケート
- ・「村民(利用あり)」…村民アンケートにおいて、鳳バスを利用したことがあると回答した方(クロス集計)
- ・「利用者」…利用者アンケート

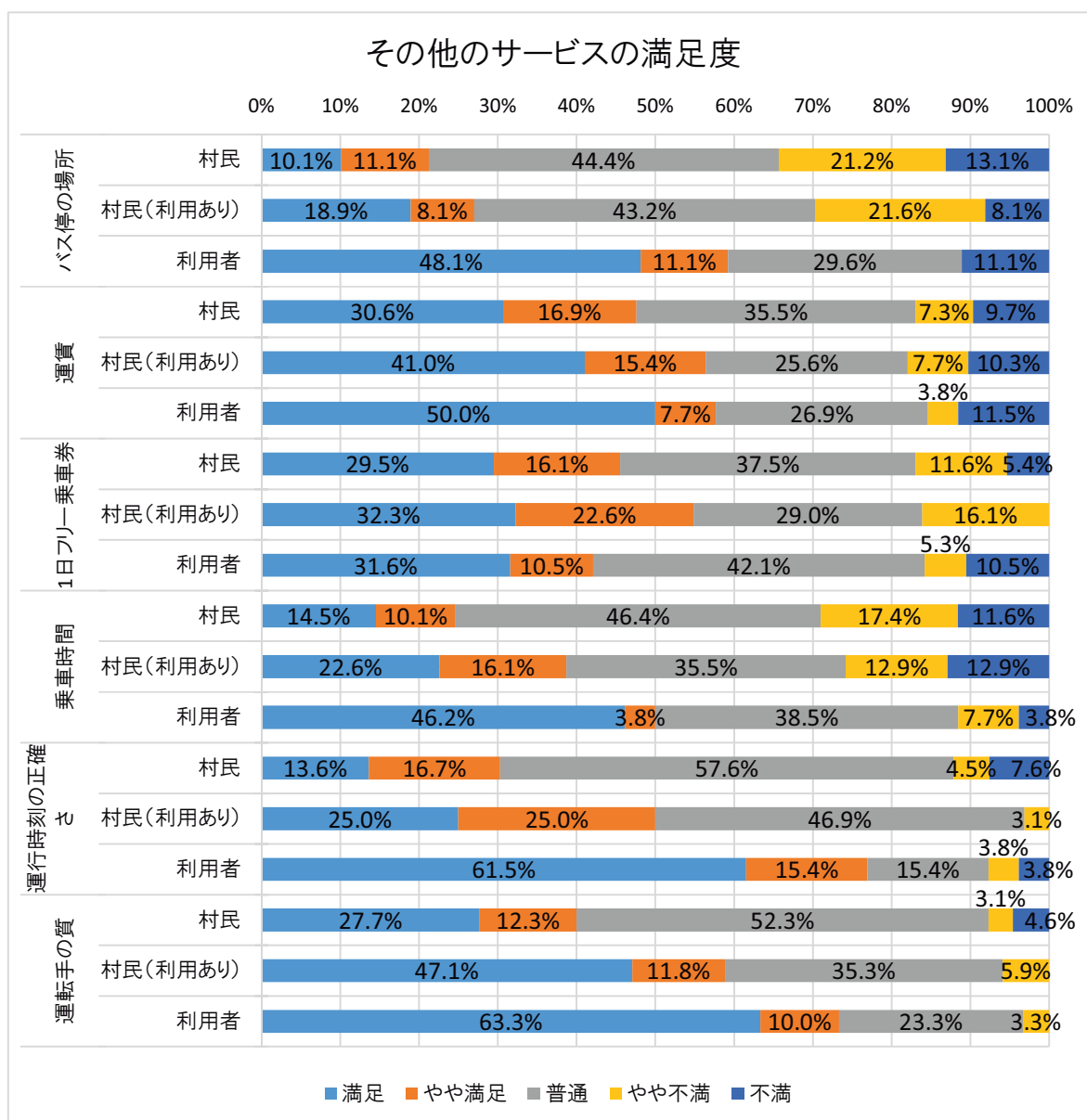
2) 休日の運行サービスの満足度の比較

- 平日と同様、全ての項目において、「利用者」、「村民（利用あり）」、「村民」の順で、前者ほど満足側の割合が高く、不満側の割合が低くなった。
- 平日と比較すると、全体的に満足側の割合が低く、不満側の割合が高くなった。



3) その他のサービスの満足度の比較

- 全ての項目において、「利用者」の満足側の割合は半数以上を超え、不満側の割合は最高でも2割に達しなかった。
- 「1日フリー乗車券」のみ、「村民（利用あり）」の満足側の割合が最も高く、「利用者」が低い結果となった。
- 大きく差があったのは「運行時刻の正確さ」で、満足側の割合は「村民」が3割、「村民（利用あり）」が5割、「利用者」が8割弱となった。



2. 全体評価の比較

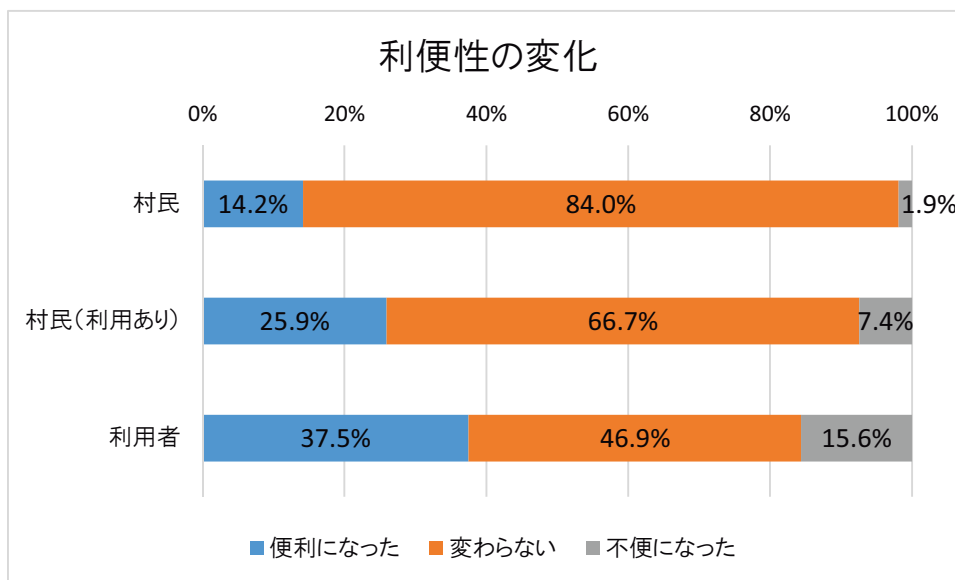
- 全体評価においても「利用者」の方が満足度が高くなった。
- 項目の中では、1日フリー乗車券のみ、「利用者」よりも「村民（利用あり）」が高くなった。残りの項目は、全て「村民」、「村民（利用あり）」、「利用者」の順に前者ほど満足度が低くなった。

	村民	村民(利用あり)	利用者
平日の運行サービス	2.6	2.9	3.4
運行時間帯	(2.8)	(3.1)	(3.8)
運行本数	(2.4)	(2.9)	(3.0)
路線数・経由地・ルート	(2.5)	(2.7)	(3.5)
休日の運行サービス	2.2	2.4	2.8
運行時間帯	(2.1)	(2.3)	(2.6)
運行本数	(2.1)	(2.2)	(2.6)
路線数・経由地・ルート	(2.5)	(2.7)	(3.1)
その他のサービス	3.3	3.6	3.9
バス停の場所	(2.8)	(3.1)	(3.9)
運賃	(3.5)	(3.7)	(3.8)
1日フリー乗車券	(3.5)	(3.7)	(3.5)
乗車時間	(3.0)	(3.2)	(3.8)
運行時刻の正確さ	(3.2)	(3.7)	(4.3)
運転手の質	(3.6)	(4.0)	(4.3)
鳳バスの全体評価	2.8	3.1	3.5

3. 平成 25 年 7 月の路線変更による利用状況の変化の比較

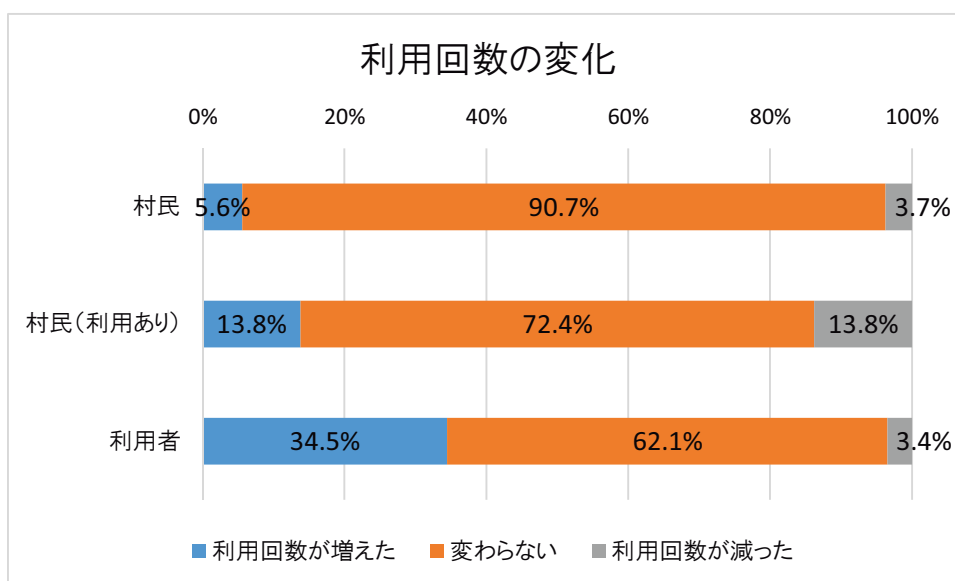
1) 利便性の変化の比較

- ・「利用者」では「便利になった」も「不便になった」も他よりも多く、「村民」では「変わらない」との回答が多くなった。
- ・全てで「便利になった」が「不便になった」を上回っていた。



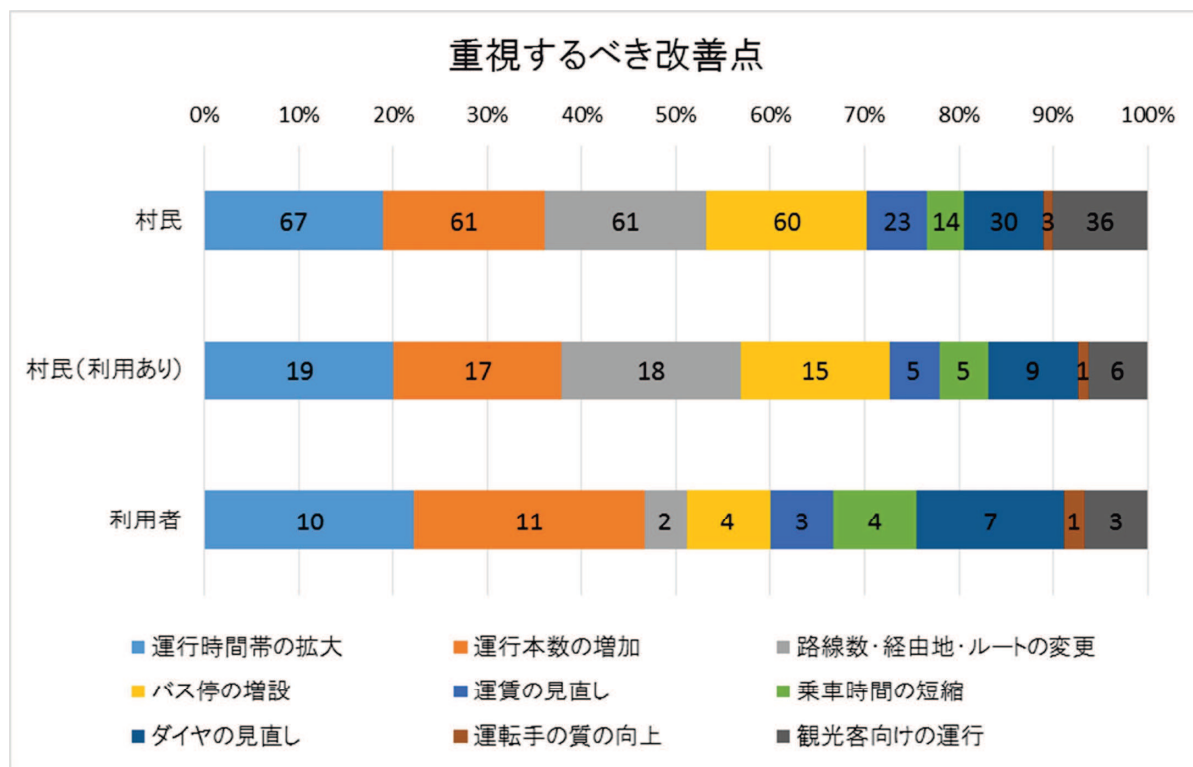
2) 利用回数の変化の比較

- ・「利用回数が増えた」については、「利用者」の割合が高く、「村民（利用あり）」、「村民」の順で割合が低くなった。
- ・一方、「利用回数が減った」については、「村民（利用あり）」の割合が最も高く、以前利用していたが現在は利用していない方が含まれているためと考えることができる。



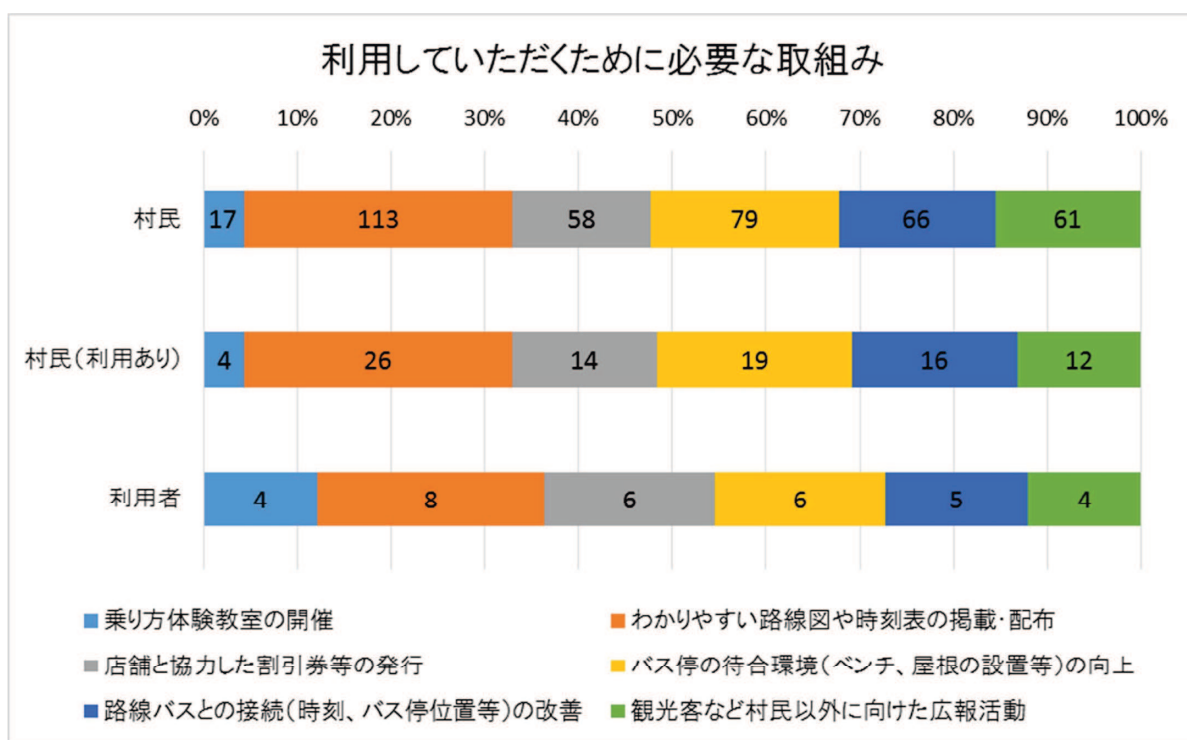
4. 重視すべき改善点

- 「村民」と「村民（利用あり）」はほぼ同様の傾向を示したが、「利用者」では「運行本数の増加」や「ダイヤの見直し」が他と比べ高い割合を示し、「路線数・経由地・ルートの変更」や「バス停の増設」では低い割合を示した。
- 「観光客向けの運行」は「村民」の割合が他と比べ高くなった。



5. 利用していただくために必要な取組みの比較

- ・「村民」と「村民（利用あり）」では、「わかりやすい路線図等の掲載・配布」、「バス停の待合環境の向上」、「路線バスとの接続の改善」の順となった。
- ・「利用者」では、「わかりやすい路線図等の掲載・配布」に次いで、「バス停の待合環境の向上」と同数で「店舗と協力した割引券等の発行」が挙がっていた。
- ・顕著な差異はみられなかったが、「乗り方体験教室の開催」や「店舗と協力した割引券等の発行」では「利用者」の割合が高く、「バス停の待合環境の向上」や「観光客など村民以外に向けた広報活動」では、「村民」及び「村民（利用あり）」の割合が高くなった。



VIII. 観光客アンケート調査

1. 調査の概要

1) 調査の目的

観光客の読谷村内での移動実態、路線バス等公共交通での観光への意向を把握し、鳳バスの観光への活用を検討するための基礎データを収集することを目的とする。

2) 実施期間

- ・平成27年2月26日～3月9日（12日間）

3) 調査対象

- ・村内宿泊施設の利用客

4) 調査方法

- ・宿泊施設フロントでの直接配布・回収

2. 回収数

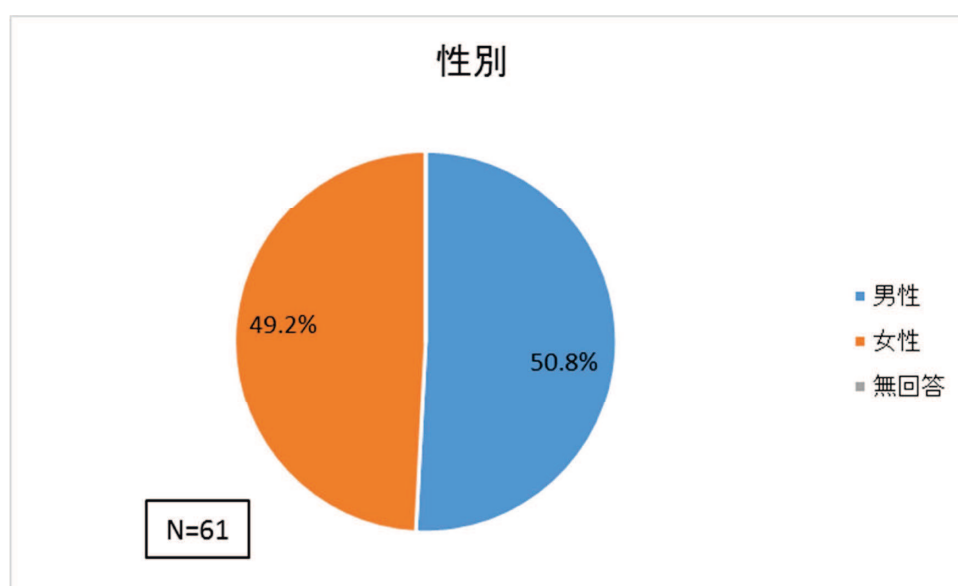
- ・回収数は61件であった。

3. 集計結果

1) 属性

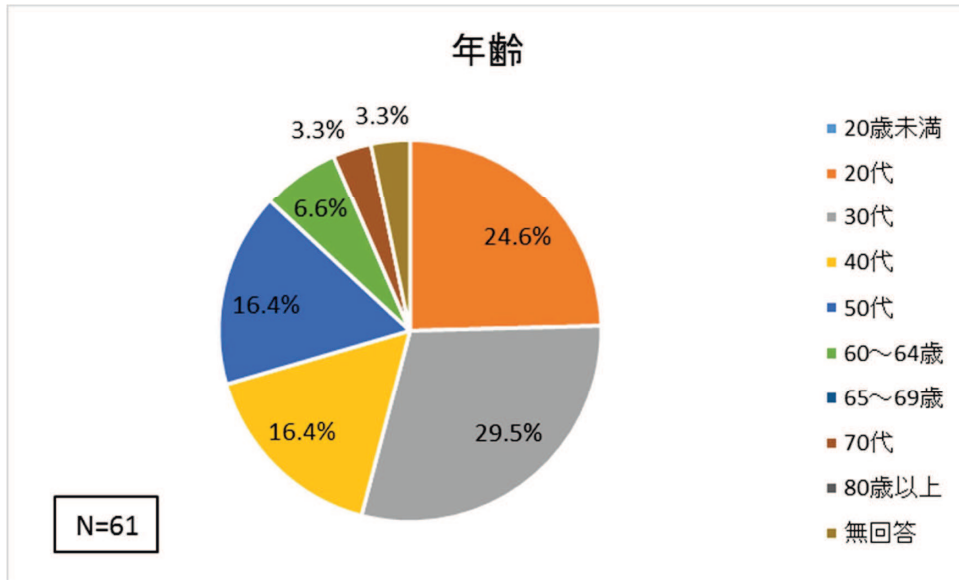
①性別

- ・性別は「男性」が50.8%、「女性」が49.2%で、ほとんど差がなかった。



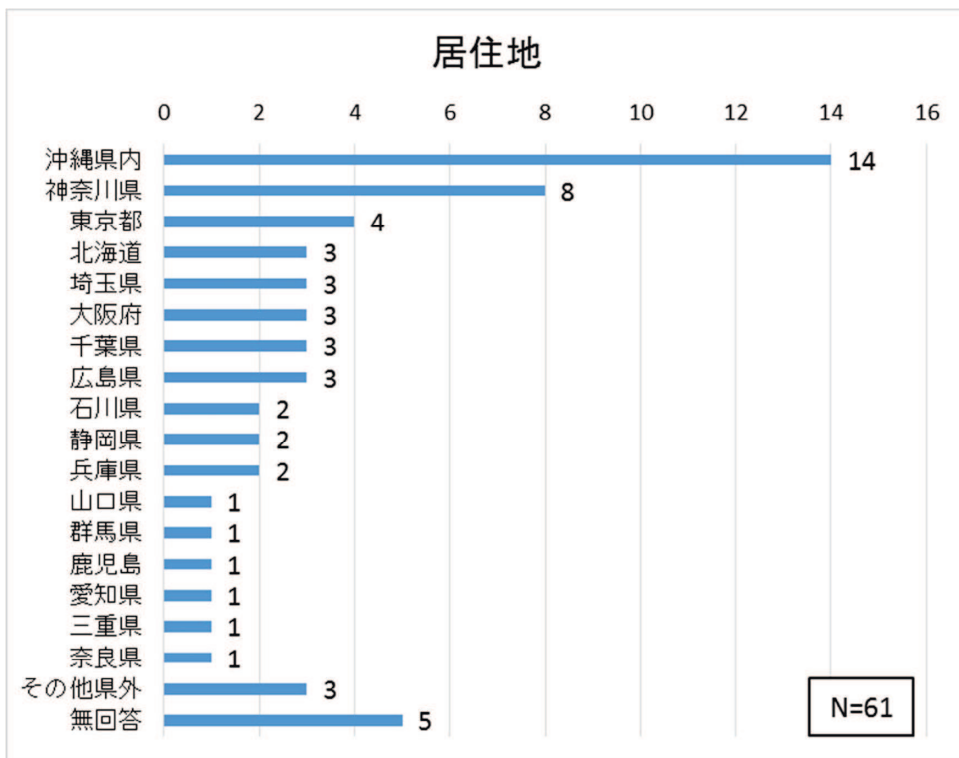
②年齢

- 年齢は「30代」が29.5%と最も多く、次いで「20代」が24.6%、「40代」と「50代」がそれぞれ16.4%であった。
- 高齢者にあたる65歳以上は、3.3%となった。



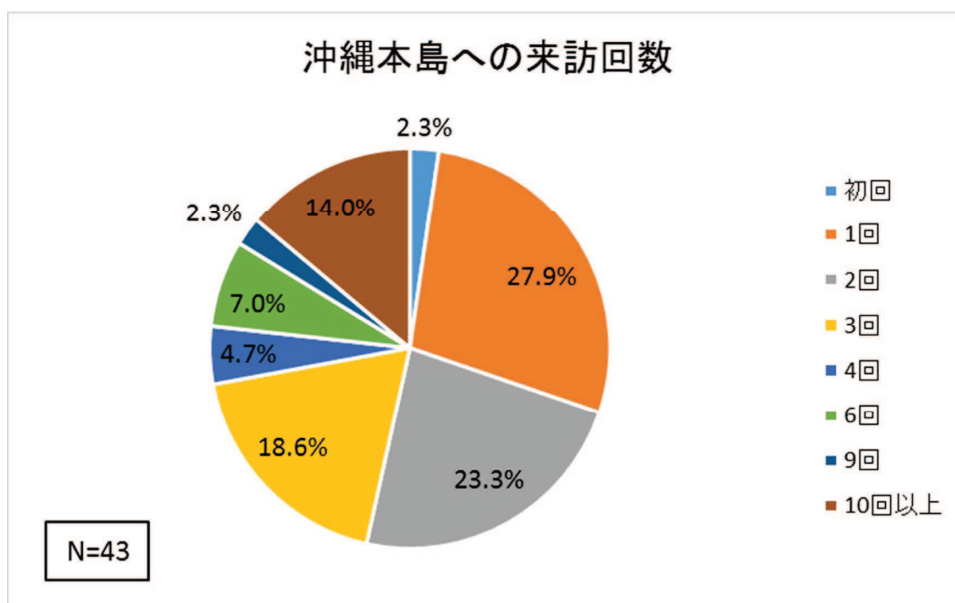
③居住地

- 「沖縄県内」が14件、「沖縄県外」が42件で、「沖縄県外」が約7割を占めた。
- 「沖縄県外」の内訳では、「神奈川県」、「東京都」の順となり、関東在住者が多かった。



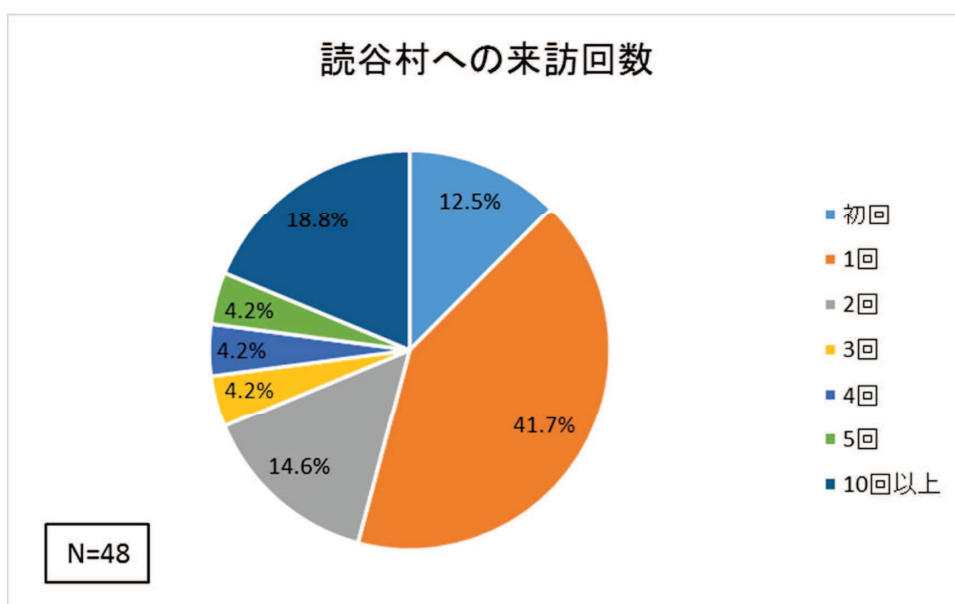
④ 沖縄本島への来訪回数（沖縄本島在住者以外）

- 沖縄本島への来訪回数は「1回」が27.9%と最も多く、次いで「2回」が23.3%、「3回」が18.6%であった。



⑤ 読谷村への来訪回数

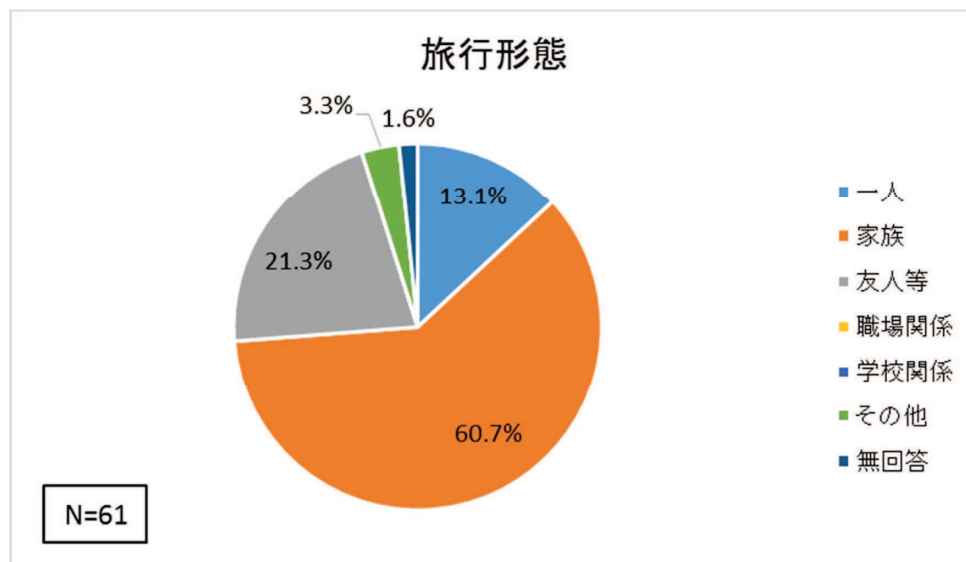
- 読谷村への来訪回数は、「1回」が41.7%と最も多く、次いで「10回以上」が18.8%、「2回」が14.6%であった。
- 読谷村へ来訪する観光客にはリピーターが一定数いると考えられる。



2) 旅行実態

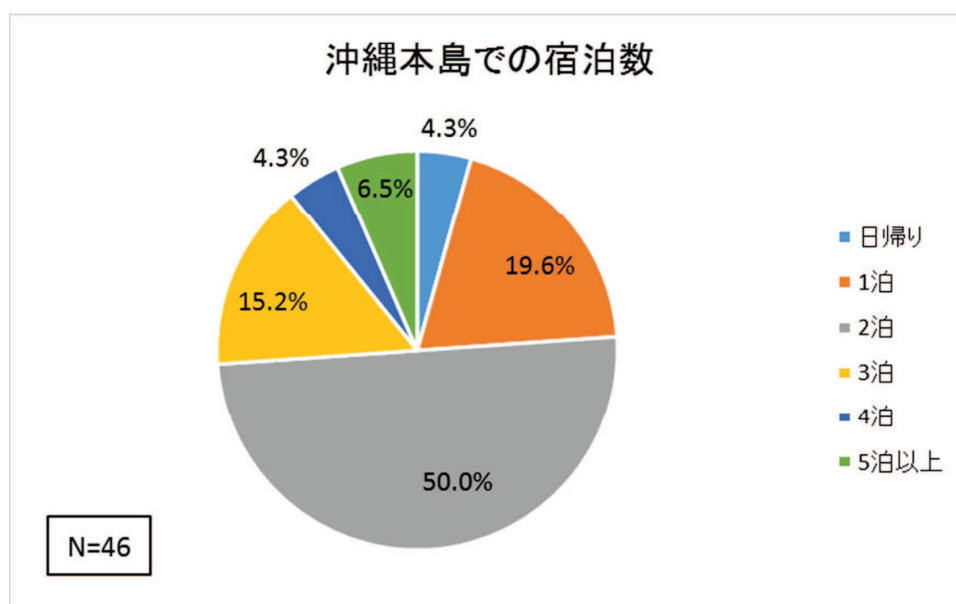
①旅行形態

- ・「家族」旅行が60.7%と最も多く、次いで「友人等」との旅行が21.3%、「一人」での旅行が13.1%であった。



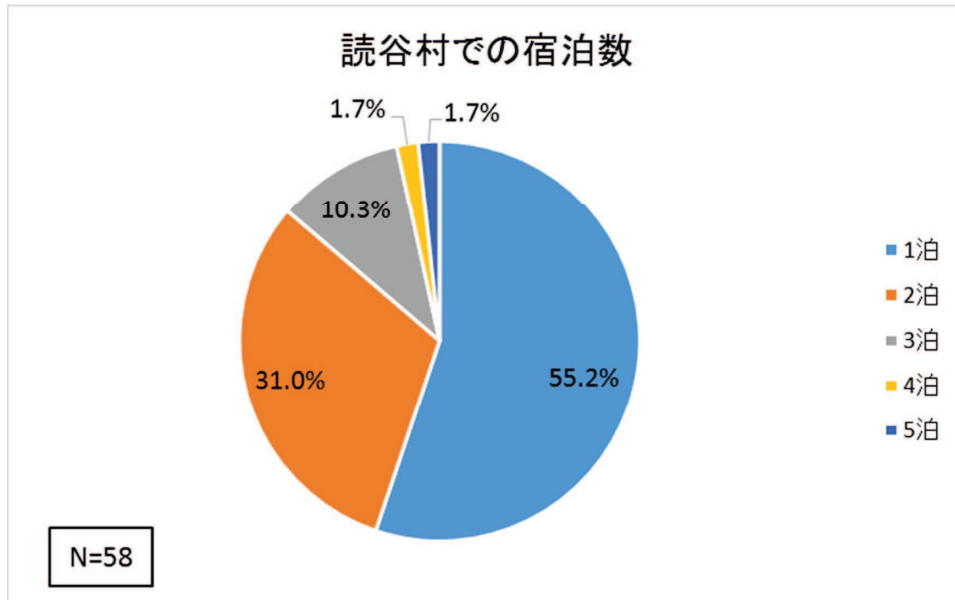
②沖縄本島での宿泊数

- ・沖縄本島での宿泊数は「2泊」が50.0%と半数を占めたほか、「1泊」が19.6%、「3泊」が15.2%であった。比較的短い滞在が多いといえる。



③ 読谷村での宿泊数

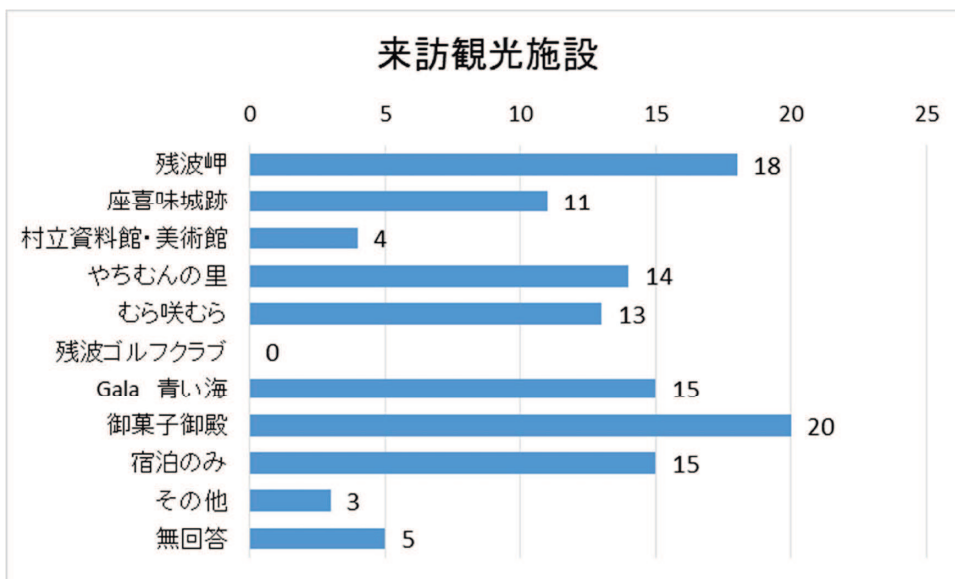
- 読谷村での宿泊数は、「1泊」が55.2%と5割強を占めたほか、「2泊」が31.0%であった。ほぼ1泊か2泊の滞在であり、ゆっくり時間をかけて過ごす宿泊者は多くないといえる。



3) 移動実態

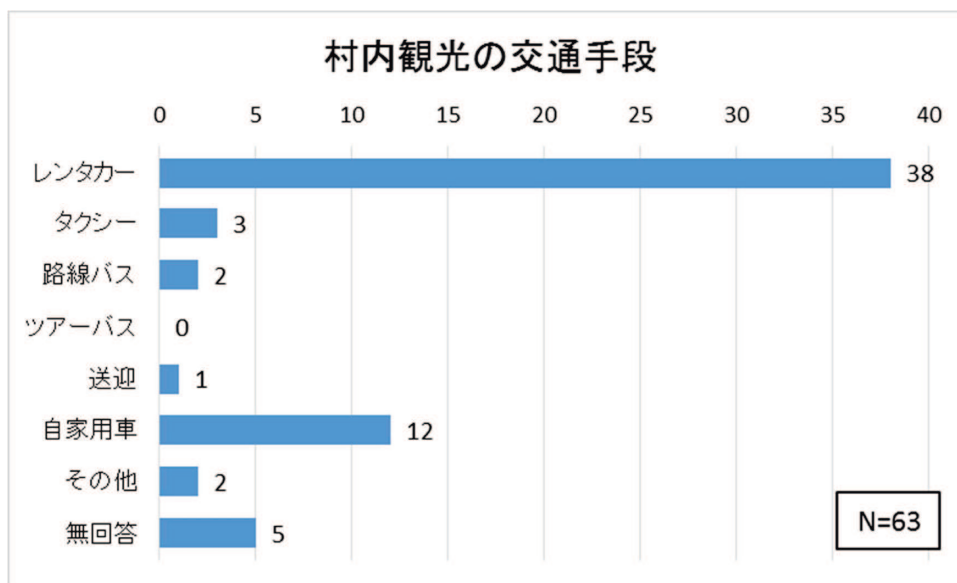
① 来訪観光施設

- 来訪した、またはする予定の村内観光施設では「御菓子御殿」が20件と最も多く、次いで「残波岬」が18件であった。
- 「宿泊のみ」も15件で多かった。
- 「残波ゴルフクラブ」は0件であった。



②村内観光の交通手段

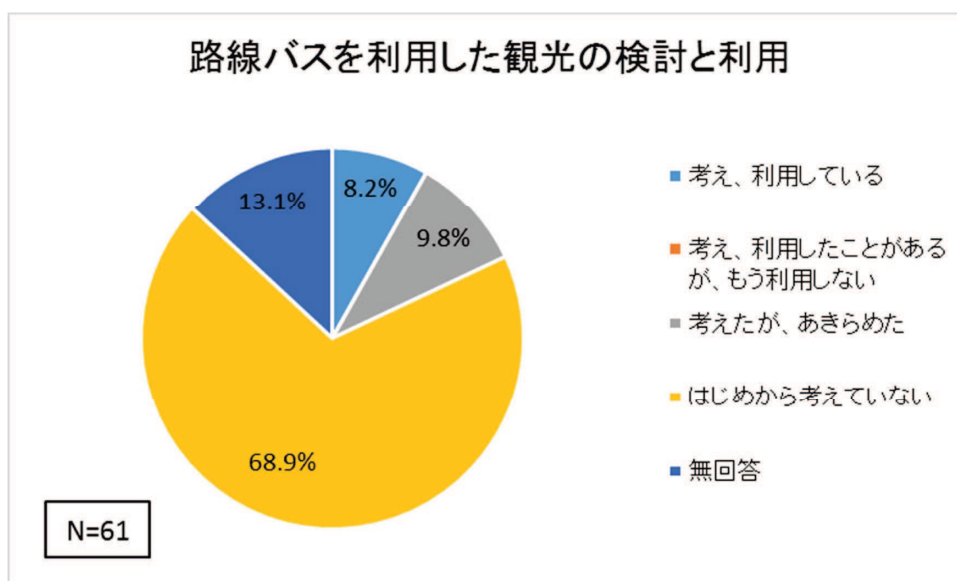
- 村内観光での交通手段は「レンタカー」が38件となり、圧倒的に多かった。
- 「自家用車」は12件で、県内在住者は主に自家用車で来訪していると考えられる。
- 村内の観光は、自分で車を運転して観光地を訪れる方が多いと考えられる。
- 一方、「タクシー」は3件、「路線バス」は2件、「ツアーバス」は0件であった。



4) 路線バスを利用した観光への意向

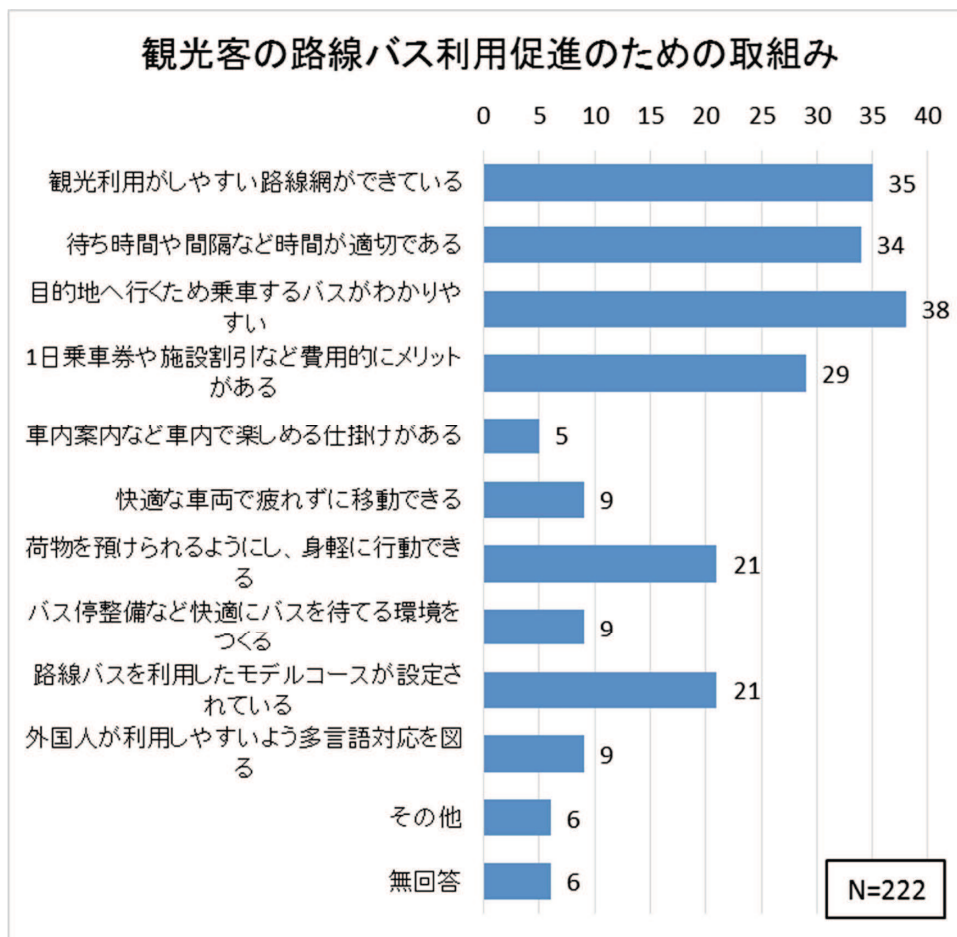
①路線バスを利用した観光の検討と利用

- 路線バスを利用した観光について「はじめから考えていない」方が68.9%と約7割を占めた。
- 一方、「考えたが、あきらめた」が9.8%だったほか、「考え、利用している」が8.2%であり、少数ながら路線バスを活用している観光客もいた。



②観光客の路線バス利用促進のための取組み

- ・観光客が路線バスを利用するために、必要な取組みとして「目的地へ行くため乗車するバスがわかりやすい」が38件と最も多く、次いで「観光利用がしやすい路線網ができている」が35件、「待ち時間や間隔など時間が適切である」が34件となった。



5) 公共交通を利用した観光について【記述回答】

- ・調査票において、「公共交通を利用した観光についてご意見・ご要望」についての記述欄を設けた。記述回答の内容を以下に整理する。

- 観光客への周知を徹底すれば利用が増えると思う。
- 100円の観光周遊バスがあるとよい。
- カーシェアやレンタサイクルがほしい。
- エリアマップなどで路線バス利用をわかりやすく示したものがあれば、利用しやすい。
- 路面電車があるとよい。
- 名称がかすれて見えにくかった。バス停をもう少しきれいにしてほしい。
- ホテルと飲食店の間のバスがあれば外出しやすい。
- 車を運転したくない人もいるので、公共交通を利用して観光できるとよい。